

政治倫理審査委員会会議記録

1 日 時 令和8年7月21日（火曜日） 午前10時00分開会 午後2時16分散会

2 場 所 第二委員会室

3 出席委員 東野、田原（洋）、田中、宮島、阿部、中村、保坂の各委員

4 欠席委員 なし

5 調査対象議員 近藤議員

6 委員外議員 松田、渡辺、関原、利根川、和泉、松尾の各議員

7 事務局職員 磯貝局長、上野次長

8 本日の会議に付した事件

- 1 近藤新二議員の件に係る審査請求について
 - ・近藤新二議員に対する聞き取り

9 経過と結果

○東野委員長

それでは定刻になりましたので、政治倫理審査委員会を開会いたします。

欠席通告委員はありません。

定足数に達しておりますので直ちに会議に入ります。

本日の協議題に沿って進めたいと思います。

1 近藤新二議員の件に関する審査請求について

- ・近藤新二議員に対する聞き取り

○東野委員長

近藤新二議員の件に係る審査請求についてを議題といたします。

まず、少し説明に入らせていただきたいと思います。委員の皆さんにですね、議事録等の資料を送付し、資料確認の上、聞き取り内容を提出していただく旨をお願いしました。

提出いただきました資料を確認しましたが、これまでの委員会で開催された事項で、既に資料内に記載のあるもの、どう思うか、どう考えるか等の心情の確認がほとんどでございまして、審査に適さないとと思われる内容が多かったのが事実でございます。

提出いただきました資料は、取りまとめた上で近藤議員のほうに事前にお渡ししてございますが、本日の審査は、まず私のほうから、これまでの事実に関しての確認を近藤議員に対して行い、その後、委員から事前に皆様に配付した資料に基づいて、事実確認等の聞き取りを行う形で進めたいと思います。

質疑の内容は、政治倫理規則に違反するか、違反する事実があるかどうか、これまでの記録や資料から確認できる内容かどうか、の確認という部分を意識していただきたいと思います。

この内容で進めていくことにご異議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○東野委員長

聞き取りにつきましては、できれば本日をもって終了とさせていただきたい。このように思っております。

既にですね、辞職勧告も受けている内容でございます。9月議会初日までには報告書のほうを提出したいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは早速内容に入らせていただきます。

まず初めに、令和7年12月12日、16日の経緯ということで、近藤議員に対して事実確認の意味で、私、この内容を読み上げます。

これについて、近藤議員に関しましては、この事実で間違いのないかの確認を取っていただきたいと思っておりますので、傾聴いただきたいと思っております。

令和7年12月12日、金曜日の総務文教常任委員会において、18時30分頃、近藤新二議員は、19時に歯医者を予約しているため、途中退席したい旨を阿部委員長に申し出た。

その際、委員長及び議長から公務優先であり、適切でない旨を伝えられたが、委員会での議案審査が終わった18時50分頃に退席した。

委員会では、その後に2件の所管事項調査が行われ、20時40分に散会した。

令和7年12月16日、火曜日、阿部委員長から、12日のまだ委員会が開催されている時間に近藤議員が飲酒を伴う会合に出席していたとの情報があった。

令和7年12月16日、火曜日、阿部委員長からの情報を確認するため、当日開催された全員協議会及び総務文教常任委員会の終了後、議会事務局同席のもと、議会応接室において、古畑議長、保坂副議長、阿部委員長、東野議運委員長が近藤議員に事実確認を行った。

近藤議員からは、途中退席について、議長からは指摘されたが、委員長から指摘されたかは覚えていない。歯医者へ行った後に会合に出席した。委員会に戻らなければという認識はなかった。委員会では議案の審査は終了したのでよいと思った、といった趣旨の発言がなされた。

古畑議長、阿部委員長からは、退席を認める発言はしておらず、どちらからも適切でない旨を伝えたとの発言があった。

本当に歯医者に行ったのかという質問に対しては、インター歯科に行き、痛み止めをもらった、診察は5分程度で終わった、領収書は捨てたと答えた。

近藤議員からは、そこで退席いただき、対応を協議することとした。

対応の協議に先立ち、事務局がインター歯科に受診の事実を確認していたところ、近藤議員が議会応接室に戻ってきて、先ほどの話は虚偽で、実際には歯医者には行っておらず、会合に参加したと発言した。

それを受けて、改めて対応の協議を行い、12月17日に開催する議会運営委員会において、近藤議員から経緯の説明を受け、意見を聞くこととした。

今ほど説明させていただきましたが、この内容に間違いはございませんでしょうか。

○近藤議員

相違ございません。

○東野委員長

今ほど読み上げました経緯について、近藤議員から相違ないということで発言をいただきました。

続きまして、近藤議員に対する聞き取り内容について、正副でまとめさせていただきました。①から⑥の項目について、内容に入っていきたいと思いますので、まずこの内容について読み上げて、私が近藤議員に振りますので、副委員長のほうで読み上げのほうお願いいたします。

○田原洋子副委員長

一点ずつ読み上げていきます。

①令和7年12月12日以降の近藤議員の言動についての疑義

まず一つ目、なぜ嘘をついてまで退席したのか。

○東野委員長

これについて近藤議員より答弁いただきたいと思います。

○近藤議員

議案だけでは何とか可決させるために出席して、所管事項調査は私一人いなくてもいいのかなという安易な考えがありました。

また退席するに何か言い訳が必要と考え、歯医者に行くと言った虚偽の言い訳をしてしまいました。

○田原洋子副委員長

二つ目、委員会時、委員長や議長以外の人に歯科で診療を受けるという趣旨の話はしたか。

○近藤議員

これについては、議員には言ってないと思います。

また、行政側には言ったような記憶があります。

○東野委員長

今、①について質疑応答がございましたが、こちらにつきまして、委員のほうからご質疑ございますでしょうか。

○田中委員

今のまず①のほうで、なぜ嘘をついてまで退席したのかということで、所管事項調査っていうか、その前は議案が終わって、所管事項調査は私がいなくてもいいというふうに今答弁されたかと思うんですけども、それはどういったらいいのか、所管事項調査をどう思ってるのかなと疑わざるを得ないんですけども、認識を伺いたいと思います。

○近藤議員

今ほどご説明したとおり、私の勝手な安易な考えで、私一人いなくても所管事項調査は滞りなく終わるのかなというような甘い考えがありました。

○田中委員

議案の審査と所管事項の調査を、同列に思っていないっていうか、何ていうのかな、格差を設けているような今の発言にとれるんですけども、ずっとそのように、甘いとか何とかって話じゃなくって、資質の問題だと思うんですよね。ちょっとそれがおかしいんじゃないかなと。その辺どう思いますか。

○近藤議員

今ほど田中委員言われたとおり、やっぱり議案のほうが優先していると、その当時は考えていました。所管事項調査を若干、議案よりも下のほうに見ていたのが、そのときは私の考える事実です。やってしまったことなんで、その後は所管事項調査の重みをひしひしと感じております。

○田中委員

当時のポストは議会運営委員会の副委員長ですよ。で総務文教常任委員会の委員で、一期目の議員じゃなくて、まあ、一期目ならいいって話じゃないんですけども。

確かそのときの所管事項調査は、いじめ問題で、傍聴の方がたくさん来ておられて、というふうに私は聞いているんですけども、その審査をするのに私はいなくてもいいという考えが、どうも理解できない。

これは議員というよりも、資質の問題であるし、ちょっとおかしいんじゃないかなと思います。感想です。

○保坂委員

今ほどの中で、私も近藤議員の委員会に対する立場なんですが、近藤議員は会派に所属した議員として、常任委員会に出られていると思うんですね。

で、会派代表で出られている委員の方というのは、委員会が終わった後、会派に戻って、今日こんな議論がありましたとか、今こんな動きで会議に取り組んでいるんで、今後、会派としてどういたしましょうかみたいなことをするのが大前提に考えているんですね。

今の答弁でいくと、議案審査は報告されるんだけど、所管事項調査は報告されてなかったっていうことになりますし、これまでもそういう判断で、会派に対してそういう対応をとってきたってことになるんですけども、そこはどういうふうに捉えているのか、まして今ほど田中委員からご指

摘もあったとおり、総務文教常任委員会が非常にボリュームが多くてですね、懸案事項でいじめの問題等も多く審議されている中で、まさに所管事項の中での話の内容が、会派に伝えなくてはいけない内容かなというふうに思うんですけども、そういったところが、議案審査をすればいいんだと、所管事項は特段いいんだという感覚で、これまでやってこられたっていうことに関して、非常に私も自分の立場とか、自分が今どういうことをしなければいけない、要は公務としてしなければいけないというところから、ちょっと逸脱した捉え方をされたのかなと。これまでずっと議員として、そういう捉え方でやってこられたのかなというふうに今思うんですけども、その辺本当に安易な考えであったのか、たまたまその日だけそう思ったのか。そこが私たちとしては理解に苦しむところで、嘘までついて退席するっていうところに、やっぱりきちんとした、今日の機会が弁明するのに一番いい機会だと思いますので、そういったことも含めて正確に知らせていただきたいと思います。

○近藤議員

所管事項調査について、今、保坂委員言われたように、会派のお二人に知らせるべき問題、当然だと思います。

私自身も、会派の皆さんに所管事項調査は報告はしていたんですが、このいじめ問題について、同じような所管事項調査が度重なっていたこともありまして、この12月議会の今回は、私一人いなくても大丈夫なのかなというような、本当に安易な考えがそこにありました。

同じような問題といっても、その時々により報告事項が違うというふうに、私も今考えれば思ってますんで、本当に軽率な行動だったと、私自身、後になって思っております。

○保坂委員

すいません、お答えになってないので。

心配してるのは、会派に対しての報告事項を成さなくてもいいって考えたことと、その日に限ってそういう行動をとったのかどうかっていうのが、非常に大事かと思うんですね。

その回答になってないと思うんです、私。もし安易な考えがあれば、これまでずっともう、この総務文教常任委員会だけでなく、他の委員会も全部そういう考えで臨んでたってことになる、もう、議員としての資質がないってことになってしまうので、その日に限ってなぜそういう行動を取ったかっていうところを、今日この機会に、しっかり弁明しておかないといけないという思いからお尋ねしてるんで、会派に対しての立場と、あとその所管事項というものに対しての議員としてのお立場っていうところをどう捉えて、その行動になったのかというところが一番要かだと思いますので、その日が特別だったのかどうかっていう部分が非常に大事になってくるので、そこをきちんと説明されたほうがよろしいかと思います。

○近藤議員

今、保坂議員がおっしゃるように、その日だけだったのかっていうことで、このいじめ問題、幾度となく出てきました。

その日だけだったんでいいのかっていうのが、私自身、今思い返すと、その日だけは、良かったのかなというような感じがしておりますです。

議員の立場としてっていうところで、所管事項調査をどのように考えて、先ほども言ったように、所管事項調査を若干、議案よりも下に見ていたっていうところは、このときにはありました。

○保坂委員

すいません。答えになつとらんのですよ。何遍も言いますね。

まず、会派の代表として委員会に出ておられるわけですよ。会派の代表として。所管事項も、普通であれば、先ほどもご自身も言っていたとおり、会派に報告するわけですよ。報告して、今後の動きであるとか、今日の調査内容について、どういう意見を今後発言していくかとかっていう、そういう作業が待ってるわけですよ。それをその日に限って良しと思ったのか、これまでもずっと、所管事項で議論したことを会派の皆さんにお伝えしなくてもいいと思ってきたかっていうことが、まず第一点目と。

二点目は、やっぱりその何ていうのかな、その日に限ってと言うのであれば、そこの限定した理由もきちんと言わないと、これまでのことも全部、所管事項というものを軽く見てた。逆に言うと多分、会派の人にも報告してなかったってことにもなるので、そこはきちんと説明されたほうがいいですよってことを言ってるので、そこが抜けとるんですね。だから、なぜそういう行動を取ったかの要因になるので、ここは明確に言っておかないと、議員としての資質が問われてというところをよく考えて、答弁されたほうがいいと思います。

○近藤議員

まず、この日に限っていいのかというご質問なんですが、先ほども言ったように、この日に限っていいのかというふうに考えてしまったのは事実です。

次に会派の代表として話をしたのかっていうことで、話はしております。その都度こういった所管事項調査があって、いじめについては、今このような状態で進んでいます。二人にも、資料は、見せられる部分は見せてるんですが、見せてはいけないっていう資料はそこにもあったんで、口頭でこういうことの資料がありますよっていうことは、その都度伝えてはあります。

○保坂委員

全然かみ合わないんですけど、続けてよろしいでしょうか。

○東野委員長

結局、近藤議員は、途中退席されたっていうところに、特別な理由があったのかっていうところをまず確認したい。

今回に限って、所管事項をないがしろにして、そこに参加するっていうところに理由があったのかっていう、端的にそういうことです。

○近藤議員

特別な意味はありません。その日だけの私の考えで、安易に考えてしまったというのが、現実の見解です。

○保坂委員

最悪な答弁をいただいたと思っております。

あの特別な理由があれば、何とかその答弁の中身を聞いて、配慮できることがあるかなと思うと、全くそういう考えがなくて、もっと言いますと会派の人に対しても、その所管事項調査の報告をしなくてもいいって思ったってことになります。この重大事態案件についても。

もっと言いますと、先ほどの経緯の中でもあったとおり、もう意図的に歯医者まで行くという嘘をつきながら、もうその日にそういう話をされておるんで、そうすると、結局、所管事項調査よりも、そのお酒の入った会議をもう優先したってということが、近藤議員の中ではそういう優先順位であったということを認めたことになりますので、そうなりますと、やっぱりもう政治倫理規則の第1条であるだとか、第2条であるだとか、第3条であるだとかも全部これ引っかかってくるようになりますので、議員の資質が無しということで、自分で認めたということでよろしいでしょうか。

○近藤議員

保坂委員に今言われたように、その次の会を優先してしまったっていうのは、はっきり言ってその日の私の中では、優先をしてしまったのが事実であります。

○田中委員

この後にも関係してくるんだけど、このとき、議長、委員長に許可を求めたけども、許可されなかったわけなんだけど、許可されなかったのに退席したわけで、議長、委員長の許可に対する、どのように思ってるのかなと。

何で許可されなかったのに、退席、別にいいんだと思ったっていうことなんですか。

それよりも、こっちのほうが、公務のこっちよりも大事だと。ちょっとその辺は私が理解が。普通というか、普通聞かないんだけど、聞かないっていうか、公務以外のものに行こうなんて考えに及ばないのが普通なんですけれども、行きたいがために議長や委員長に許可を求めて、それが許可されなかったんだけど、その許可、議長や委員長に対してどう思ってるのかなっていうのが、非常に疑問なんです。

○近藤議員

このときには、嘘の言い訳をして歯医者に行くという、この歯医者に行くというところが、許可を得なくてもいけるのかなっていうふうに、このときには考えていました。

○田中委員

やはりでもね、議長あるいは委員長が、許可を求めて許可されなかったら、行かないのが普通じゃないですか。あるいは、こんなに痛くて、もしも本当に歯医者があればしたら、痛くてももうどうしようもなくってということだったら、そのような訴えをされたんじゃないかと思うし、体に関わることは、自分も今歯医者に行ってるから、切ないときは分かるんですけども、それなりの説明になっていたのかどうか、嘘なんだから説明しなかったんでしょうね。

ちょっと根本が違うんじゃないかなと思うんですよね。

○近藤議員

田中委員言うように、本当に私自身の考えが、根本的にそのときは違ったっていうのが、後で皆さんのご指摘ではっきり分かりました。

○保坂委員

今、なぜ嘘をついてまで退席したかということに関して言うと、その酒宴の席の、例えば近藤議員がその会の主催者であったとか、役職者であったとか、自分が主催した会合なので、どうしても何か挨拶しなければいけないとか、皆さん労う言葉をかけなきゃいけないとか、もう本当、例えばスケジュールを無理くりな設定で、もう本当に皆さんに無理を言ってね、その会を招集してね、立場であったために、その日はどうしても行って挨拶をしなきゃいけなかったとか、何かそういった背景があったのかなかったのか。

あの、許されない行為なんですけども、そういう弁明がないと、その日は特別だったということにもならないので、そういったところを聞きたいんですけど、全然ただの、何ていうんですか、一会員としての参加だったのか、その辺も全然私が分からないんですよ。夕方、歯医者へ行くという嘘まで言って、止められてるのにも関わらず出ていくっていうのは、何かしらやっぱり、単純に特別なことがあるんでなかろうかって普通考えるんで、その辺が全くなくて、安易であった安易であったって言われると、ますますその議員としての資格がないっていうことになってしまうので、ましてや金いただいてね、私らの公務として会議をして、市民の代表として、そこで意見を交わして、結果を市民の方に報告するっていう立場でありますから、それを放棄していくっていうのは、多分最後の弁明ができる機会だと思っておりますので、そういったところがあれば、きちんと潔く明快な答弁をされたほうがよろしいかと思うので、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

○近藤議員

今ほど保坂委員が言う、特別な役職ではありません。

ただ、同窓会の一役員ということです。

○宮島委員

委員会の席上で嘘をついて、委員長に止められたけども、それを無視して退席したということですが、その嘘をつこうとしたきっかけですね、これが例えば委員会の最中に、もう委員会がかなり延びていて、このままだとその後の会合に間に合わない、会合に出たいがために、その場で考えたのか。それとも、あらかじめ委員会とその会合がバッティングするってのは分かっていますので、途中退席を正当化するためですね、嘘なのか、それはどちらなのでしょう。

○近藤議員

時間が押し迫ってきている中で、突発的に何か言い訳を考えて、退席しようということで、突発的に考えて、歯医者に行くということを考えて言ったと記憶しています。

○宮島委員

当日、その委員会の最中に、その嘘を思いついたということで理解しました。

となるとですね、この二つ目の質問の中で、委員長とか議長以外の人に言ったかどうかという質問ですね。先ほど近藤議員のお話では、議員以外の人にそのことを言ったような記憶があるということですが、その発言はどのタイミングで行ったのでしょうか。それは記憶にありますか。

○近藤議員

記憶は定かじゃないんですが、議長、委員長に言った後の休憩中だったと思います。

○東野委員長

それは職員さんに対して。

○近藤議員

確かにこちら、行政職側にいる職員さんだったというふうに、ちょっと映像的に記憶しています。

○宮島委員

近藤議員は保坂副議長とか田原洋子議員、それから私ですね、ハラスメントのワーキンググループのメンバーですよ。当然かなり回数を重ねて協議をした中で、現行のですね、政治倫理規則の条文は、かなり何回も読んだと思うんですよ。それで、政治倫理基準の第3条ですけども、第1号にですね、議員の品位と名誉を損なう一切の行為を慎みと書いてあるんです。この条文に照らしてですね、公務である総務文教常任委員会を途中退席して、半ばプライベートな会合に出席するっていうのは、これに抵触するとは全然思わなかったんでしょうか。それを伺います。

○近藤議員

よくよく後から考えると、抵触するんだなっていうふうに思いました。

そのときは、そういった政治倫理規則の条文が私の頭から出ていました。

○宮島委員

先ほど田中委員からもあったんですが、議案の審査と所管事項調査の軽重があるっていうのは、いつごろからそういう理解だったんでしょうか。

近藤議員と私同期ですけども、私もですね、海洋高校の子どもたち向けの講演を依頼されて、ちょうどその日に後からですね、議運のイベントが入って、海洋高校の講演を優先していいかどうかというふうに言ったところ、それやったら議員辞職もんだよねというふうに、当時の議運の委員長からご助言いただきました。それぐらい議員の公務というのは、重いんだと。例えば、結婚式なども出席できない。そんなようなことを聞いて、すごいんだなと思いました。

近藤議員も、そういった今までの5年間の間に、いかに議員の公務は重いのか、それは重々承知されてたと思うんですね。にも関わらずですね、二期目の1年目に、議案審査よりも所管事項調査は軽いものであり、自分がいなくなっても問題ないんだと。

しかも、委員長とか議長からも、途中退席駄目だよと言われていたにも関わらず、それを無視してですね、行くっていうのは到底理解できません。よほど重要な会合であれば別ですけども、聞くところ、同窓会の一役員ということで、それは極めてね、総務文教常任委員会を意図的に退席してですね、行くような会合ではないと思うんですね。

現段階では、多分、総務文教常任委員会を途中退席したことに対して大いに反省されてると思うんですが、当日そのような判断に至った心情というのは、今思い返すとどういうことなんでしょうか。私は到底理解できないんですが、当時の近藤議員の心の中で、どういう考えでその行動がなされたのか、伺います。

○近藤議員

田中議員の説明と一緒にいるんですが、議案審査がかなり、時間がかかって、所管事項調査に移る頃には、かなりの時間になってしまったと。

その中で次の会合への出席を優先してしまったっていうのが、今回の私の不祥事なんですが、当然、所管事項調査のところも、議案のほうよりも若干下に見ていたのは確かです。

それが以前からなのかと言われると、はっきり言って、以前からそういうような考えがありました。

ですが、そのウエートに対してどの程度っていうところは、私の中では、10対8とか、そういった部分でウエートはありました。

○保坂委員

委員会時、委員長、議長以外の人に、歯医者さんに受診を受けるという趣旨を話した、職員であったとか記憶があるとかって話なんですけども、それは先ほどの話だと、議長、委員長に相談した後っていうんですけども、多分6時半ぐらいに、そういう委員長、議長に相談されてて、7時にはもう退席されてるんで、どうやって職員に言うのかなって、今すごく素朴に疑問に思ってるんですけども、それは記憶にあるんでしょうか。

○近藤議員

休憩に入ってからすぐに、確か委員長、議長のところに行ってお話をしたと思います。

その後、休憩中に私の映像の中で、こちらの行政の方々、市長の後ろの席あたりと、そのような話をしたっていうのが記憶にあります。

○東野委員長

その時間帯っていうことです。

○保坂委員長

それも不思議で、議長、委員長には許可を得てないのに、わざわざ市の職員にその後話をするっていうのが不自然なんです。普通は。

だから、そこもまた虚偽の答弁してるんじゃないかなと聞いてて思ったんですけど、大丈夫でしょうか。

○近藤議員

今ほど答弁したとおりです。

○東野委員長

他、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○東野委員長

それでは①については終結いたします。

それでは②お願いします。

○田原洋子副委員長

②令和7年12月16日の正副議長、東野議会運営委員長、阿部総務文教常任委員長による近藤議員の聞き取りの際の虚偽の発言。

まず一つ目、議長に止められたことは覚えているが、委員長に止められたことは覚えていないことに対する説明が欲しい。

○近藤議員

12月17日の議会運営委員会での謝罪のときに、阿部委員長と議長が退席してはいけないというような発言をしましたが、私自身、委員長のお言葉よりも、議長の言葉が印象に残っていてしまい、委員長から言われたことが記憶が定かでなかったというのが原因です。

○田原洋子副委員長

二つ目、なぜ嘘をついていたことを告白したのか。

○近藤議員

最初に嘘をついてしまうと、それを通そうとする弱い自分がいました。

ですが、退席した後、再度考えたところ、やっぱりそれは違うのかなということで、虚偽をしてしまったということをお伝えしました。

○東野委員長

②の設問について、近藤議員より答弁いただきました。

この②の内容について、委員のほうから質問があればお願いいたします。

○保坂委員

議長に止められたことは覚えていて、委員長に止められたことは覚えてないって言われるんですけど、会議の性質上ですね、委員長のほうが重いんですよ。議事整理権であるだとか、委員に対する指導的な立場っていうのはね。

その会合に限って言えば、議長はオブザーバー議員として、相談とかいろいろ受けたときに発言する立場なんで、確かに糸魚川市議会としては、役職上は序列でいけば議長のほうが上なんですけども、その会議を仕切ってるのは委員長なんで、もう二期目になる近藤議員であるわけですから、その辺の議事整理権であるだとか、委員長たるもののその発言というのは重いっていうことはご存知かと思うんですけども、それもすごく気になるんですけども、議長の発言は耳に残るけど、委員長の発言を耳に残らないと、もし言われるのであれば、これまでもそういう感覚で委員会に参加されてたのかなっていうふうに思っています。

だから、先ほども言ったように、その日は特別であれば、またちょっと違うんですけども、元々そういう感覚でこられたっていうものだから、非常にちょっと意外というか、ちょっと普通では考えられない発言になってるんですけども、そもそも委員長に相談をされてるわけですよね、そもそも。委員長の発言に納得できないでやり取りしてるから、議長が多分、途中から話に入ってきてると思うんですよ。だからその流れからいっても、委員長は多分、その駄目だって言うから、もしそこで許可出してるのであれば、議長が入ってくるあれもなかったはずになっちゃうんで、そこも非常に申し訳ないですけど、虚偽というか、そういうふうに読み取ってしまうんですけども、そこは本当に間違いないでしょうか。

○近藤議員

今ほど説明したとおり、阿部委員長のところに、保坂委員言われたとおり、最初に行ったんです。

そのときに、一緒に議長がお話になったのが印象に残っていて、阿部委員長のお言葉がそのとき、私の記憶から、はっきり言って薄れてしまったっていうのが、事実でございます。

なので、議長の言葉が強く印象に残ったっていうのが、先ほど答弁したとおり、あります。

○東野委員長

そういった事実関係で間違いないですか。

ご本人の認識でということで。

○保坂委員

ちょっと確認のため、皆さんと認識共有したいんで。

当時、総務文教常任委員会ですと、議長は総務文教常任委員会の委員であるということで、それもまた逆に言うと、委員の発言は重んじたけども、委員長の発言を重んじなかったってことになるんで、それもちょっとまたおかしいなということになっちゃうんですけども、それは、あくまでも議長の言葉として受け止めたっていうことでよろしいんでしょうね。

○近藤議員

席の配置が、今委員長がいるところに阿部委員長がいらして、宮島委員がいるところに古畑委員がいて、若干席が近かったんで、その横に私がいたんですけど、ちょうど委員長にお話ししに行ったときの話が、古畑委員が議長としてそれは認められないとかなんとかっていうような記憶があります。

だから、その議長としての立場で、委員としての立場っていうか、議長の立場として私に言われたというところが、その記憶にあります。

○東野委員長

近藤議員は、当時、議長の言葉として受け止めたっていうご回答ですか。

○近藤議員

はい。

○保坂委員

役職的に、古畑委員が議長の発言として聞いたということは、今、確認取れました。

ただ、いずれにしても、やっぱりその委員会の長は阿部委員長でしたので、その言葉をないがしろにしたという事実が分かりましたので、これまた後のことに繋がっていくかと思うので、非常にそれは大きな取扱いのミスであったと思いますので、あるまじき行為だというふうに、私は今、確認を取らせてもらいました。

○宮島委員

この二つ目なんですけど、なぜ嘘をついたことを告白したのかなんですが、告白に至った原因は、聞き取り調査の中で、歯科のほうに確認するよという発言を受けてから、近藤議員は別室に退席されたわけですね。もう歯科に確認されたら、これはもう嘘を突き通すことがかなり難しいと、そういう思いから告白したんでしょうか、伺います。

○近藤議員

今ほど宮島議員のおっしゃることも、当時の記憶をたどると、そういう部分もあったし、このまま嘘をついても、いけないんだなっていうところも、両方あったと私は記憶しております。

○宮島委員

もっともっと早く、最初から嘘をつかなければよかったと私は思います。

最初から嘘をつかなければ、こういう事態に陥らなかったわけですね。嘘を何回も何回も重ねた結果、現在に至っているわけです。

ご自身が議会で嘘をついてるということは、他の方、例えば同じ会派の議員の方、あるいはご家族とか支援者、そういった方々に、16日の聞き取り以前にですね、お話になったことはありますでしょうか。

○東野委員長

質問の趣旨は、支援者です。

○宮島委員

支援者だけじゃなくて、他の人に話したことがありますか、嘘を。

○近藤議員

この16日の日の出来事の前には、誰にも話してはいないと私は思います。

話したのは、この日の家に帰ってからだったと思います。

○保坂委員

私も当事者というか、この会議にいたんですけども、16日の会議ですけども、このとき議長に再三ね、発言もこれでいいのかということで、再三言われて、いいですって言って、近藤議員が外に出てったんですけども、このときは、さっきの①の関係でいくと、委員長の話は聞こえてなくて、議長の話は聞こえてたわけですね。で、この日の会議は、議長もおられたし、私もおったし、阿部委員長も東野委員長もおられた。そのときに、議長に再三ね、もうこれ以上言うことはないのかって言われてたときに、議長を重んじるのであれば、そのときやっぱきちんとっておくべきだったと思うんですね。そのときは、逆に言うところの4人なら騙せるっていうふうに思ったってことになるんですけども、それは間違いないですか。

○近藤議員

今の保坂委員の発言で、騙せるんじゃないかって、そうは私思っなくて、最初に嘘をついてしまったら、嘘をつき通そうとする自分が、やっぱりそこにいたのは確かです。

後から考えると、本当にあのときに、議長にこれで大丈夫かって言われたときに、素直にあそこで嘘でしたと言っていれば、こんなようなことにはならなかったのかなというふうに、私も今、考えております。そのときには、弱い自分がそこにいました。

○保坂委員

今、自分が弱い、自分が安易だったとかって言われるんですけども、違うんですよ。これ、私も含めて4人に対する冒涇なんですよ。わざわざ近藤議員の発言を聞き取るために、時間を調整して、お聞きして、再三ないのかって確認して、ないですって言って外に出ていったわけですよ。

これ、めちゃくちゃひどくないですか。逆の立場でお考えください。誰かのために自分が時間を要して、会議を開いて、事実確認をさせて、これもあれに引っかかってくるんですよ、政治倫理規則。潔く明快な回答をしなきゃいけないことになってるんですよ、議員たるものは。

本当に印象に残っているんですよ。議長は本当に再三、もうそれでここから出てったら終わりだよってことを多分言われてたかと思うんですよ。でもそこを振り切って出てったし、私が領収書あるのかって聞いたときにも、捨てましたっていう、かなり意気込んで言っておられたんで、私のほうがなんか失礼な言い方したかなって記憶にもあるんですけども、それが嘘だったっていうことを、しらを切ってくっていう部分で、議会のそうは言っても、役付きの人間がですね、顔を揃えてお尋ねしてる中でね、そこを退席していった。嘘をついたまま退席していったっていうことは、議会に対する冒涇でもあるし、この4人に対しても冒涇であるし、っていうことが何もよぎらなかったのかなと思ってて、嘘をつき通す自分に自信がなかったから帰ってきましたっていう理屈だと、本当に何かいたたまれないんですけども、それはそういう解釈でよろしいでしょうか。

○近藤議員

今ほど保坂委員言われたように、議長、副議長、阿部委員長、東野委員長、4人がせっかく時間を割いてまで、私に対して聞き取り調査をしていただいたっていうのは、本当に身につまされる思いです。

今ほど、そのときを振り返って考えると、あそこで5分休憩をいただいて、自分で考える時間を作るべきだったと、今思えばそう思いますが、あの場で皆さんと話をしてる中では、若干そのような余裕がなかったのかなと、今考えるとそう思います。

○保坂委員

どうしても論点がちょっとずれちゃうんですけども、4人に対しては、嘘をついてもいいと思ったってことでよろしいですかね。事実確認なんで、そのときの自分の感覚はこうでしたっていうことじゃなくて、そのときはしらを切れる、嘘をつける、この4人なら大丈夫だって思ったっていうふうな捉え方しかできないんですけど、そこはそれでよろしいですよ。事実ですから。

○近藤議員

そういったことは考えておりませんでした。

嘘をつき通せる4人だったとかっていうような考えになりませんし、ましてや、ついてもいいんだということも、そのときには私の考えにはありませんでした。

○東野委員長

一度は嘘をついたものの、やはり嘘をついてごまかせないと思ったから、戻ってこられたってことなんですよ。

○近藤議員

はい。

○保坂委員

違うんですよ。だから出ていく前に再三言われてたのに、その4人は騙せるなと思ったから出てったんでしょってことを確認してるんです。

○近藤議員

そのような考えは私はありませんでした。

○保坂委員

騙せると思ってなかったら、その場で言ってたはずですよ。

騙せると言うから、多分一旦退席されたんだと思うので、そこはそうでなかったっていうとすごく矛盾が出てくるんで、でも今の発言も事実として残るんで、それでよければあれですけども、到底ちょっと認められない発言になるかと思うんですけど、そこは大丈夫でしょうか。

○近藤議員

今ほども言ったように、騙せるとは思っていません。ましてや4人の皆さんの聞き取りの中で、私の答弁が余裕がなかったっていうか、考える余裕もあそこにはなかったものですから、そういった嘘をつき通してしまったと。

先ほども言ったように、5分なり、休憩を取って考える時間があれば、若干答弁が違ったのかなと、今になって思ってます。

○保坂委員

多分、考え方が違うと思います。考える余裕があったから嘘をついたんだと思います。

もし、正直に、もうこの4人ならもうあかんわ、駄目だわってことになれば、多分、つらつらと事実関係言われてたと思う。考える余裕があったから、多分嘘がつけたんだと思います。

そこはちょっと、認識としてはちょっと答弁は、私は違うと思います。そうでないと、ちょっと行動のつじつまが合わなくなると思いますので、一応、これは私の意見としておきます。

○宮島委員

確認ですが、16日の聞き取りというのは、その日突然、近藤議員に伝えられたんでしょうか。それともあらかじめ、総文の後にこういう聞き取りやるよと、事前に通告されてたんでしょうか。ちょっと教えてください。

○東野委員長

暫時休憩します。

<休憩中>

○東野委員長

休憩を解き、会議を再開いたします。

今ほど宮島委員のほうからご質問があった件ですが、この12月16日の正副議長、東野議会運営委員長、阿部総務文教常任委員長との面談は、どういうきっかけで近藤議員に伝えられたかというところなんですけども、前段に全員協議会がございまして、その後段のときに、近藤議員に対して、私のほうからこういうちょっと確認したい事項があるので、時間を作ってくれっていうことで、確認する時間を取りました。

○東野委員長

他、ないようでしたら、②について終結したいと思います。

11時5分までトイレ休憩とります。

<休憩中>

○東野委員長

休憩を解き、会議を再開いたします。

それでは③についてお願いします。

○田原洋子副委員長

③近藤議員が支援者に対して、阿部総務文教常任委員長の取った対応について誤解を招く発言。

この誤解を招く発言というのは、支持者に対する説明会における、委員長からは止められなかった、了承を得たと受け取られる発言についてのことです。

一つ目、誤解を解くための説明会について、行うまでの期間がかかったことについて説明してほしい。

○近藤議員

この時系列もそうなんですが、1月31日の後援会で、委員長は退席してはいけない旨を言ったと訂正し、役員を通して12月27日の参加者に伝えるよう指示がありました。

3月6日の横町区議会定例会において、一部の支援者にこのことを聞いたところ、伝わっていないことが分かりました。

その後、私自身で、参加者に個々に伝えようとしたのですが、4月6日、謝罪会の質疑においてお答えしたように、2名が残ってしまい、このときには自宅を調べることを欠いてしまい、遅れてしまいました。

○田原洋子副委員長

誤解を招く発言は、自己の正当化のためにしたのか。

○近藤議員

阿部委員長に止められたことは覚えてない、ということに対する説明と同様に、委員長のお言葉よりも、先ほども言いましたように、議長の言葉が印象に残っていて、委員長から言われたことが記憶が定かでなかった。委員長のお言葉を聞いていないと説明しましたが、自己の正当化のためにしたとか、委員長を貶めるなど、全く考えておりませんでした。

12月27日の参加者に説明に回ったところ、「近藤さんは委員長の言葉を聞いてないって言ったけど、許可が出たということは言っていないよね」っていうことは、ある程度皆さんから確認は取っております。

○田原洋子副委員長

三つ目、委員長は「行くな」とは言っていない（そういう趣旨の説明をしている）が、近藤議員が提出された資料や発言では「行くな」と言ったとしている。そのように表現した理由を説明してほしい。

○近藤議員

令和7年12月17日の議会運営委員会では、「議長と委員長の駄目だという言葉聞かず」と答弁しました。

令和8年2月9日の議会運営委員会では、阿部委員長の退席をするなということについては、答弁しましたが、令和8年3月13日の議会運営委員会に提出された、時系列の文書、これは中村クラブ長のメモと聞いていて作ったもので、「行くな」は適切な表現ではないと私も後で感じましたし、支援者への説明では、決して「行くな」とは表現はしておりません。

○東野委員長

今ほど、皆さんからまとめさせていただきました質問のほうを、やり取りさせていただきましたが、これについて。

○阿部委員

1月31日の後援会のときに、役員を通して、12月27日の参加者に伝えるよう指示がされたとありますけれども、詳しくお聞かせください。

○近藤議員

これについては、1月6日に、古畑議長、保坂副議長、阿部委員長、東野委員長と、我ら創生クラブの3名の聴取の場に、阿部委員長が当日、公務優先発言をしたということ、しっかり認めたことを受けて、1月31日に後援会の役員会で、そのことを私が説明したところ、後援会長が、みんなでその旨を、12月27日の参加者に伝えるように指示がされました。

○阿部委員

この間に、3月6日に定例会があつて、伝わっていないことが分かったっていうのは、その間に、要は、役員さんが訂正に回ってるっていうようなイメージを持ってるんで、今までもそうやって、要は、役員のほうが訂正に回ったというような発言もあったかと思うんですけど、そこも詳しくお聞かせください。

○近藤議員

役員も含めて私もなんですが、皆さん何人か分かれて、こういう人たちに説明して回ろうというのを作りまして、決めたものです。

○阿部委員

この後の4月6日の謝罪会のほうにちょっと入っちゃうんですけど、繋がってるんでよろしいですか。

今ほどそういうふうにあったんですけども、そのときは、謝罪会ときには、そういうチェックリストとかも作らずに、写真を見て回った、要は、12月27日の当日の風景を撮った写真があつて、特に、誰々が参加したっていう34名のチェックリストを作らずに、写真を見てこの人は行った、行ってないっていうのをやって回ったというふうにありましたけど、今ほどそういったものを作っているふうにお話あったんですけど、またちょっと話変わってきてるんですけど、いかがですか。

○近藤議員

1月31日のこの会では、誰々行ったよね、誰々に行ったよねっていうことを、それで作ったんですけど、これは落ち度がはっきりあったっていうのが確かにです。ですので、阿部委員長ご指摘のとおり、この3月6日の定例会において落ち度があったっていうのがはっきりしまして、それ以降、今おっしゃったように、写真を見て、この人この人っていうリストを作って、私、個々に回ったというのが事実です。

○阿部委員

リストは作ってないとおっしゃってます、あのとき。リストを作らずに写真だけを見て判断しているっていうふうに、再三確認して、そのとおりですという回答ありますが、大丈夫ですか。

○近藤議員

この1月31日のときは、リストは作らずに、この人この人この人のは、この人が対応しよう。この人この人は、この人が対応しようっていうことを作って、そのときよりはっきりしたリストは作っていません。

その写真を見てっていうことで、写真を起こして、名前をある程度リストを作って、私たちが個々に回ったというのが実情です。

○阿部委員

そのリストを作ったのはいつですか。正確なリストを作ったのはいつか、お聞かせください。

○近藤議員

正確なリストは、4月6日の謝罪会を受けて作りました。

○阿部委員

謝罪会での指摘を受けて、写真からリストを作った、それ34名のリストなんでしょうか。

○近藤議員

そのとおりです。

○保坂委員

ちょっと近藤議員の発言の中で、後援会とか支援者の会とかっていろいろあるんですけども、ちょっと定義だけ確認させてください。

今日いただいた経緯の中で出てくるのだと、27日に支援者の会34名っていうのは、これはあくまでも近藤議員の選挙等でご支援をしてくださってる方、ということでよろしいでしょうか。

○東野委員長

ちょっとお待ちください。今ほど阿部委員と保坂委員の内容が、⑤と関連してきますもんで、今一度ちょっと保坂委員の質問をちょっと中断させていただいて、今日ですね、近藤議員のほうから、時系列で詳しく経緯について提出いただいたものがございます。かなりのボリュームなんですけども、これ近藤議員のほうからちょっと読み上げていただいて、辞職勧告決議が可決されてからの経緯についてを、ちょっと手間がかかるんですが、読み上げていただければと思います。

○近藤議員

令和7年12月18日、辞職勧告決議案が可決され、創生クラブで打合せをしております。

令和7年12月19日、後援会幹事会に、経緯を説明と支援者の説明会の日程を調整。これは横町財団事務所で7人。これ後援会幹事会ということなのですが、このときには、選挙をする後援会と、県に報告する後援会の両方です。

令和7年12月27日、支援者に謝罪と説明。ここでは後援会並びに選挙を支援する後援会、それと支援者の3つのところが入っています。これは横町会館で34人。この説明会后、選挙対策用の後援会の団体が解散をしております。

令和8年1月6日、先ほども説明したとおり、古畑議長、保坂副議長、阿部委員長、東野委員長と創生クラブ3人の聴取。阿部委員長に当日の「公務優先」発言を認め、会派の離脱は近藤議員の進退に委ねることを答弁しております。

令和8年1月7日、議会運営委員会の委員辞職を届け出しております。

令和8年1月8日、会派議員に今後の相談をしております。

令和8年1月31日、これは県への報告の後援会で、議員活動継続を決意表明し、横町財団事務所で5人、委員長は退席してはいけない旨を言ったと訂正し、役員を通して12月27日の参加者に伝えるよう指示がされております。

令和8年2月3日、議員活動継続を表明し、対応を打合せしております。このときには、古畑議長、保坂副議長、阿部委員長、東野委員長と対応しております。

令和8年2月9日、議会運営委員会で委員辞職が受理され、謝罪と議員活動継続を表明、辞職勧告決議文の内容やこれまでの経緯について質疑が行われております。

令和8年2月16日、本会議で謝罪と議員活動継続を発言しております。

令和8年2月20日、会派議員に相談。議会運営委員会での質疑の内容を相談しております。

令和8年2月24日、阿部委員長に謝罪。委員長が退席許可を出していないことを支援者に説明をすると伝えておりました。

令和8年3月16日、本会議の議会運営委員委員長より4点の通達が可決されております。

令和8年3月26日、阿部委員長への謝罪文を会派で協議をしました。

令和8年3月27日、議長に謝罪会の日程と謝罪文の確認を行っております。

令和8年3月31日、議長と謝罪会の進め方について打合せをしたところ、議長から傍聴議員の席を設け、謝罪文の読み上げの後に、参加した議員から質疑を設けると説明を受けております。

令和8年4月1日、会派議員にこのことを相談をしております。それと、阿部委員長へ謝罪文の確認依頼をメールでして、関与は適切でないというご回答を受けております。

令和8年4月2日、中村クラブ長から東野議会運営委員長へ、謝罪会の進め方について相談をしております。

令和8年4月6日、阿部委員長への謝罪会の質疑。ここでは中村クラブ長の謝罪も行っております。古畑議長、保坂副議長、中村クラブ長と阿部委員長、私の5人です。

令和8年4月7日、会派議員に相談。今後の対応について行っております。

令和8年4月8日、グラウンドゴルフ会へ謝罪と、委員長が退席許可を出していないことを説明。これはみなと公園で20人程度。

令和8年4月14日、横町区議会定例会で説明をしております。横町会館で30人程度。

令和8年4月17日、横町公民支館運営委員会で説明。これも横町会館で30人程度。

令和8年4月20日、敬老会の総会で説明。これも横町会館で40人程度。

令和8年4月7日から20日までの間、支援者に説明。これは支援者の自宅に赴いて説明をしております。これは30人程度です。はっきりした人数は、ちょっとすいません、控えておりませんでした。

令和8年5月1日、総務文教常任委員会の謝罪と質疑。

令和8年5月11日、会派議員に相談し、市民への謝罪文について協議をしました。

令和8年5月20日、会派議員に相談して、謝罪文の内容について確認をしてもらっております。

令和8年5月29日、市民への謝罪文を全戸配布しております。

令和8年6月2日、近藤新二への政治倫理審査委員会が設置をされています。

以上です。

○東野委員長

以上で、⑤のほうも同時に審査したいと思いますので、引き続きこちらの内容も含めて保坂委員のほうから。

○保坂委員

単純なんです。近藤議員のほうから後援会幹事会とか支援者とか、後援会等、言葉が出てくるんですけども、一番気になってるのはですね、12月27日の日に、支援者に対して謝罪と説明が行われて、横町会館で34名の方に説明してると、このときに阿部委員長から言葉はなかったということを発言されておるんですが、その後、この選挙対策用の後援団体を解散してあるんですけども、これは県の報告ではなくて、選挙のための後援会が解散しているというふうに受け止めました。

でですね、その後、今度は令和8年に入って1月31日のところを見ていただくと、後援会が県のものですね。県の報告。議員活動継続を決意表明ってあるんですね。

だから、選挙の後援会ではなくて、県の報告に対する後援会で決意表明。で横町財団事務所で5人いると。委員長は退席してはいけない旨を言ったと訂正し、役員を通してって、この役員がこの5人なのかどうなのか。

この時点では選挙用の後援会は解散しているということであれば、この5人でどういう取組を、役員がどのように動かれる話をしたのかっていうのが見えないので、県のものの後援会と、いわゆるその選挙のときの後援会のメンバーであるだとか、かぶってるのか、かぶってないのか分からないですし、その5人の取組っていうのがどのようにされたのかも、ちょっと分からないんです。その辺を、ちょっとこの後援会。

あと、その支援者についても、後段でちょっと今日初めて見たんですけども、いろんなところで横町区議会定例会、横町公民支館運営委員会、あと敬老会、あと個別に支援者の自宅を訪問というのがあるんですけども、元はと言えば、34名の方に誤解を与えておるわけであって、そこをまず丁寧にやるべきところなんだろうと思うんですが、近藤議員の行った行動と、あと県のものの後援会と、選挙のものの後援会の違ったものが、選挙のほうは解散してるんで、ここでゼロベースで考え

てたんですけども、実際どうだったのかがちょっと分からないので、その辺ちょっと整理して教えていただけるとありがたいです。

○近藤議員

選挙の団体の解散は12月27日に行われて、それ以降はありません。

このメンバーについては、もう解散しましたので、実際問題、1月31日の県への報告の後援会のみが、私の後援会としての団体しかありません。

それと、34人に説明するべきということで、最初ですね、阿部委員長があたかも許可を出したようになっていうことが、最初投げかけられまして、それは、阿部委員長は許可を出していない。なお、退席はいけないっていうことを、これは34人に支援者に説明するというふうな約束をして、それが4月6日の謝罪会において、残り2人となってしまったということで、これをまず最初にやったんですが、その後ですね、謝罪会においてと、また次の5月1日の謝罪会において、阿部委員長への役職を汚したんじゃないかという、その挽回する意味での謝罪を、この後行っております。それは、4月6日以降の説明会において、やっていくということで、この説明会がだぶっていることも確かであります。

○保坂委員

事実確認をお願いいたします。

選挙対策用の後援団体解散って言うんですけど、ここは何名ぐらいの組織だったんでしょうか。

○近藤議員

これ、内容については話していいものなのかどうか分からないんですが、人数については40名程度かと思います。

○保坂委員

1月31日の県のほうの後援会、5人ってということで確認取れましたけど、5人で34名の人に対して、どういった割り振りで、先ほどちょっと話出しましたけど、写真云々って出しましたけども、この5人でどういった割り振りでしたのか、最終的に2人できなかったってことありましたけど、そのときの状況、段取りを教えてください。

○近藤議員

先ほども答弁したように、この5人で、あの人行ったよね、この人行ったよね、じゃあこの人はあなたお願いします、この人はっていうふうに、振り分けをして、これ自身は文書で残していないものがありました。

3月のこの定例会で、伝わってないことが分かって、私自身伝えようということを行った次第です。

○保坂委員

5人でどういった割り振りをしたのか教えてください。

○近藤議員

今ほども言ったように、あの人出てたよね、この人出てたよねで、この人はあなた、この人この人はあなた、というふうな割り振りをしたということです。

○保坂委員

では、1人で何十人も対応していたり、1人で数人しか対応しなかった、そういうバラバラってことでよろしいですか。

○近藤議員

そのとおりです。

○保坂委員

それが4月6日まで確認を取らなかった、2名、確認取らなかったっていう事実でよろしいでしょうか。

○近藤議員

先ほども言ったように、3月6日の横町区議会定例会において、12月27日に参加した支援者について聞いたところ、これが伝わっていないっていうのが分かりまして、その後、私自身、12月27日にいたと思われる人たちに説明をしてきました。

ですが、4月6日時点で、この2名が残っていたということが分かりました。

○保坂委員

気になるのは、この5人の役員さんで、適宜回ったところの報告会であるとか、そういうのが普通なされるのかなと思うんですけども、それはなされなかったということでもよろしいでしょうか。

○近藤議員

この後ですね、この5人の後援会というものの立ち位置が、後援会長が少ししり込みをしまして、辞任したいということを申されて、次の会合は行っていませんでした。

○保坂委員

新たな事実が出てくると、ちょっと質問しづらいんですけども、ここで1月31日すごく重大なことを書かれてますよね。要は議員活動継続を決意表明、横町財団事務所5人は、その県の後援会であるとともに、議員として近藤議員を支えていくというふうに決意されているわけですよね。役員は阿部委員長長の誤解を解くために、連携をとって34名の方に誤解を解く伝達をしていくという運びに、これを見ればなっとるんですよね。

今ほども、今ちょっと1名の方が辞任されたとかいう話なんですけども、立ち入ったことになってしまうんですけども、その5人の方は、近藤議員を支えていくっていうところで、その阿部委員長長の誤解を解くものと、近藤議員のこれまでの経緯について、その謝罪と何か混ぜこぜにして考えてたのか、ちゃんと純粹に阿部委員長長の誤解を解くためだけに、この5人は謝罪のそういうのをしていたのか、ちょっと見えにくいんです。

後半に行くと、多分、これ全体の謝罪と、阿部委員長のと、何か混ざってるのかなと思って、あくまでも阿部委員長長の誤解を解くっていうところに限定されて動けばよかったのになと思って見てるんですけど、そこはそうじゃなくて、阿部委員長長の誤解を解くためだけの、対応されたっていう認識でよろしいでしょうか。

○近藤議員

このときには、それを含めて、私の進退にも言及されたものですから、二つの案件がそこにはありました。

○東野委員長

阿部委員長に対する誤解と、近藤議員ご自身の進退についてお話にあがったということですね。

○近藤議員

はい。

○阿部委員

これも謝罪会の当日の話になるんですけど、4月6日の謝罪会では、当初、挨拶で説明の訂正をする、支援者のほうに回るっていうものが、8割程度進んでいますと当初おっしゃいました。

その後、当日の中です。これは全て4月6日の謝罪会での言動の変化なんですけど、最初は約8割の支援者には伝えてある。その後、一部、最後に2名というふうに変化がなされていますが、これはなぜそのように変化していったのか伺います。

○近藤議員

最初から残り2名とはっきり言うべきところ、私の言葉足らずで、そういったことを言ってしまったっていうのが事実です。

○阿部委員

謝罪、やはりそのときも、写真を見てというふうに、説明に回ったっていうふうにあったんですけど、やはり今ほどの話の中でも、リストを作ったのも遅いですし、話の中でも、要は最後の時系列のほうで、令和8年4月7日から20日の間に支援者に説明、支援者の自宅30名程度とありますが、これはどういった方だったのか。要は、全て34名のうちの30名なのか、聞かせてください。

○近藤議員

その30名程度っていうのが、ここにいろいろな定例会だとか、運営委員会、敬老会、グラウンドゴルフといったところを書いてあるんですが、それ以外の、ここに出席されてないその34人、プラス34人で、私の政治活動、本当に支援している方々にも一緒に回っております。

前段のそのリストなんですけど、4月6日の謝罪会のときに、リストは作ってないということで、写真を見ながらリストを作るというところで、4月6日お約束したと私は記憶しております。

○阿部委員

約束はしてなかったと思います。写真を見て挨拶に回っているという事実だけお聞かせいただいたかと思ってますし、写真、本当に34名写っておられたのかなというのも、少し疑問も残ります。いかがですか。

○近藤議員

ここで、この12月27日に説明会を開いた、このときには解散はしたんですが、そのメンバーの役員の方々に、写真にはいない方々の、この人いたよ、この人いたよっていうようなことは、聞いてしっかりと作りました。

○阿部委員

委員長からは、退席の許可が出てないよねっていうことはっていう、皆さん、支援者の方は出てないってことは言ってるよっていうような、先ほどご発言あったと思いますが、改めて詳しく聞かせてください。

○近藤議員

12月27日に参加された人たちが、あたかも委員長が許可を出したようにというふうに、いろいろなこの議員の方々の質疑の中で出まして、とにかくその許可は阿部委員長は出してない。それを最初に伝えるべきだと思ひまして、阿部委員長は許可は出してないということを伝えてるときに、近藤さんは阿部委員長の言葉を聞いてないって言ったけど、許可はもらったっていうことは、私がそのように伝えたのかどうかっていうことを支援者の方々にも聞いて、一応問いはして、確認をしておりました。

○阿部委員

それは34名全員ですか。

○近藤議員

4月6日の時点で残り2人ということで、その後4月7日、残りの2人は終わっております。

○東野委員長

要は、令和8年4月8日から、みなと公園20名程度、あと、横町会館30名程度っていうのは、その34名の中に含まれてない。議員を継続しますよっていう説明なんですよ。

で、その前段の4月6日には、既に34名、ちょっと間違った阿部委員長に対する認識についての誤解は、解いたっていうことなんですよ。

○近藤議員

4月6日時点では、その2名がまだ確認は取れてません。

○阿部委員

その中でも、要は、私が許可を出してないよねっていうふうに支援者に言っていたっていうふうにあるんですけども、それは全員から確認を取っているのかというところをお聞かせください。

○近藤議員

先ほど言ったように、全員から確認を取りました。

○阿部委員

だとすると、なぜ私が許可を出したふうな話が、私のところに入ってきてるのかというのが疑問なんです。

分かりますか。全員が全員、私は許可を出してないっていうふうに、支援者の34名全員からあったっていうことがあるのであれば、なぜ私のところに許可出したっていうふうな話が、私のところに来てるのか。

というところがやはり疑問ですし、私、これちょっと間違っていたら本当に申し訳ないんですけども、私が聞いている話だと、34名のうちの方が、聞いてないという話をいただいています。何ていうんでしょう、改めて近藤議員からの、何ていうんだろう、そういう訂正のものはきてないって

いう話がきている中で、ちょっとそこら辺も、なので、何ていうんでしょう、支援者のうちの30名最後、後半ですかね、にあったのは、自分が議員を継続するという説明なり回ったという点でもあると思うんですけども、要は、なぜそういうことが起きていると考えられるか伺います。

○東野委員長

ちょっと言った、言わないっていうところ、事実確認ができませんので、近藤議員も考えも、ちょっとお示しできないのかなというふうに思います。

これをちょっと追求していくってなると、また再調査、そういう形になりますんで。

○阿部委員

分かりました。

じゃあ、説明のときに、それぞれ皆さんに説明するときの、どういった説明、原稿なり、何か、これだけ数多くのご説明されてると思います。この前段には34名、30名も入っていることを考えると、100名を超える方に、訂正であつたりの説明をされてると思うんですけども、そのときに言ったセリフをお伝えください。

でないと、要は、言った言わんになるかもしれないんですけども、本人はそういった説明をしてないって言うんですけども、そうやって受け取られる説明があつたんじゃないかなというふうに思うんです。お願いします。

○近藤議員

文書として残ってるのが、BSNとNSTのニュース公開された後の文書は残ってるんですが、それを提出しましょうか。

○東野委員長

結局、支援者の皆さんに、阿部議員の発言についての訂正を、34名にお伝えしたと思うんです。

その内容を、どういう内容で喋られたかっていうところをお聞かせ願いたいんですけど。

○近藤議員

阿部委員長は、退席の許可を出していないっていうことははっきり明言しております。

○保坂委員

今日いただいた資料で、令和8年2月24日、阿部委員長に謝罪と書いてある、その後なんですけども、委員長が退席許可を出していないことを支援者に説明をするっていう、このくだりなんですけど、これってどう解釈したらよろしいですか。

これは何か約束をしたという、この時点で説明をするっていうことを阿部委員長に言ったっていうことですかね。この一文、ちょっとどういう解釈か、ちょっと教えてください。

○近藤議員

あの席上には、阿部委員長の他に、利根川議員と中村議員がいたと思うんですが、私が委員長へ謝罪した後、これからも委員長が退席許可を出していないことを支援者に説明するよということを、最後にお伝えしたことをここに記載しております。

○保坂委員

その上で、4月6日までに2名の方の説明が終わってなかったということなんです。

冒頭に戻りますけども、5人の役割分担で、写真を見ながらチェックしたっていうのは、途中で何か責任者が辞められたとかあったかもしれないですけど、それまで4月6日までは確認を取らないでいたということによろしいんですかね。

○近藤議員

この3月6日の区議会定例会で、一部の支援者の方に聞いたところ、聞いてないということは分かりましたんで、それまではしてなかったっていうのが事実です。

○保坂委員

先ほどから3月6日の話がいっぱい出てくるんですけど、ちょっと資料にはないので分からないんですよ。すごく気になってたんで、ちょっと一応ちょっと精査していただいてよろしいでしょうか。

○東野委員長

近藤議員からいただきました資料には、3月6日の表記がないんですよ。4月6日っていうのはあるんですけど、この3月6日っていうのはどういった事実でありましょうか。

○近藤議員

1月31日に、これは役員の中で、34名に説明するっていうことを決めたんですが、それも確認がやっぱり取れてなかったと。それが3月6日にしたところ、伝わってないということがここで分かったっていうことが、書いております。

○東野委員長

ここに書いてない事実っていうことなんですね。

○保坂委員

そうすると、また新しく疑問が出てきちゃうんですけども、3月6日に、全ての34名に伝わってなかったっていうことを認識されているのに、4月6日まで放っておいたって、1か月も放っておいたってことになるんですけど、それでよろしいですか。

○近藤議員

保坂委員、今34名全てと言ったんですが、私の担当もありましたし、その中で他の役員の担当もあって、やった人もいたんですが、抜け落ちていたところあったんで、34名全てということとはちょっと違います。

○保坂委員

3月6日の時点では何名確認取れたんでしょうか。

○近藤議員

これはもうはっきり分かっておりません。

○東野委員長

4月6日の時点であと2名だったんですよ。

3月6日の時点では分からない。

○阿部委員

4月6日の時点で2名が行けてないというのが分かって、そのチェックリストを作っていないとおっしゃってるのに、なぜ2名が残ってるというのが分かったのかも、謎なんですよ。ちょっとこの際ですので、はっきり明確にお答えください。

○近藤議員

先ほども答弁したんですが、役員の中で、この人やった、この人やったっていうところと、私が再度回ったところを、すり合わせていった結果、残り2名ということになりました。

○保坂委員

今のご答弁で考えると、3月6日の時点で全ての34人に説明が終わっていないことが確認されておりますよね。

その時点で、役員5人の方おられるわけですよ。で、行ってない方、まだ会えてない方が、その時点で今何人いるか分からないと言いましたけど、5人の中では割り振りを冒頭してるわけですから、その時点で分からないにしても、少なくとも5人の中では、何人分の何人を把握しましたよって報告しないと、3月6日の会合の意味がなくなってしまいます。

3月6日に集まってるんですよ。

○近藤議員

集まっていません。

○保坂委員

だから、そういう話になると、さっき集まってるんですよ、6日に確認取るために集まったって言いましたよね。

○東野委員長

できるならばですね、その3月6日の事実も書いていただいて、委員の皆さん全員に分かるようにしていただければっていうのが思うんですけども。

記載できなかった、しなかったっていうところなんですけども、そういったところで、またこの辺の資料に信憑性っていうか、しっかりと審査ができない、皆さんが納得してこのような経緯で、阿部委員の誤解ですとかそういったものを片付けていったっていう、そういった意味でこの時系列の文章を提出願ったんですけども、ちょっと網羅できてない部分があるということで、近藤議員に関しましても、時系列を追ってこうやってこのように用意してくれたんですけども、現段階では不十分っていう判断になってしまいますが、よろしいですか。

○近藤議員

すいません。これ間で順番にやってくと、③で3月6日の説明が出てきて、⑤でその内容が、分かるのかなということで、私ちょっとこの3月6日の横町区議会定例会というもので、一部の支援者の方に、委員長が許可を出していないよということを伝わってますかっていうことを聞いたところ、いや、聞いてないよということをおっしゃったんで、この③で、この回答が⑤にすぐ繋がるのかなと思って、ここは記載しませんでした。

○東野委員長

この経緯の中には、③で網羅されていると感じたので、記載しなかったということなんですね。

○田原洋子副委員長

ちょっと確認させてください。

そもそのこれポイントになるところが、12月の説明したときに聞こえなかったっていうニュアンスなんですけど、それが阿部委員長は許可を出したとかっていうふうに湾曲して聞く人も、理解される方もいて、聞こえなかったイコール、許可をしてるわけではないとか、誤解を招く日本語のすごい難しさっていうのがあったところが原因だと、私は思ってます。

この1月6日の時点で、公務優先の発言を認めて謝罪してるのであれば、すぐに来られた34の方に訂正なり、正しいことを伝えなければいけなかったと私は思っています。それなのに、関わらずですよ、1月31日、1か月も経ってから、役員の方に、1人でやるよりは手分けしたほうが早いよねって判断だったと思うんですけど、まず34人であれば、全く知らない人であれば、ご自身が責任を持ってリストをしっかりと作って、回るべきだと思ったんですけど、なぜそれをしなかったのか、お聞かせください。

○近藤議員

田原委員のおっしゃるとおりだと、私も今思ってます。

年初にあたって、ここの34人の以外の方々のところにも、支援者の方に説明に回っていったっていうのが、私の事実でありまして、ここには書いてないんですが、支援者の方々の自宅に行って、ある程度、辞職勧告を受けたことの説明をして回っていました。

○田原洋子副委員長

それからですね、1月31日に、みんなで手分けして、あたっていきましょうっていうことをされたんですけど、この時点で、例えば、遅くとも2月いつまでには全員にあたれるとか、例えばあたれない方がいた場合は、例えば、代わりの方が行ったほうが連絡取りやすいとか。この、何ていうんだろう、参加者に伝えるように指示したのであれば、最低限もう、1か月以上経ってることであり、せめて今年度いっぱいには終わらせるとか、そういったような期日を決めるとかというのは、なかったんでしょうか。

○近藤議員

今、田原委員おっしゃったように、期日決めてまではしてなかったのは確かです。

ある程度、曖昧な参加者のことを、この人この人はあなたが聞いてください。この人はあなたが聞いてくださいみたいなことを言って、全ての人を把握しているわけではないし、その確認も取ってなかったというのが事実です。

○田原洋子副委員長

それと同時に、やっぱり言った言わないとか、その日本語のニュアンスの難しさがあるので、本来であれば、例えば文書なりで、例えば近藤議員が直接話した方はこうですかって言われたら、そうですねって答えられるんですけど、役員の方は、その答えられない部分もあると思うんですよ。例えば役員の方がそうだろうと思ったことが、また尾びれ背びれついたりして、正しい情報にならないことも予想されるんですね。普通っていうか、考えられるのは、ちゃんとした文書、近藤議員の名前を入れて、この12月何日に説明した、聞こえなかったって発言は、あくまでも許可を得たわけ

ではないっていう、しっかり誤解を解くような文書をつけて渡したほうが良かったんじゃないかと思うんですけど、そういう文書ではなくて、全て口頭で済ましたってことでよろしいでしょうか。

○近藤議員

まずある役員の方々から話が出て、文書を残すと、その文章が適切ではないかもしれないということが出まして、口頭で伝えようということが、そのときに出了たことです。

○田原洋子副委員長

文章が適切ではないかもしれないというのは、どのようなことを想定されたんでしょうか。その文書がちゃんと伝わってないから、さらに誤解を招くようであれば、役員の方としっかり文書を精査するなり、事実確認して出せばいいだけだと思うんですけど、文書にしても、日本語ってすごく行間を読むとか、ところがあるので、そういった誤解を例えば招いたりとか、文書で残ってるとまづっていう判断とかがあったってことなんじゃないかな。

(文言の修正について発言あり)

○田中委員

二、三、ちょっと確認したいんですけど、まずこれまでの答弁の中で、最初の頃、1月31日には5人の役員ということで、役員の誰か辞職をされたっていうふうに答弁されたかなと思ったんですけども、ちょっとその辺の確認と、もし辞職をされたんなら、このことが原因で辞職されたのか、関係があるのかどうか。

○近藤議員

私の後援会長、その方が今回の件ありまして、責任を取ってという形であります。

○田中委員

何人辞められたか、それもちょっと答えられますか。

○近藤議員

その方1人だけです。

○田中委員

あとちょっと気になるところなんだけど、この③の問いは、阿部委員長の取った対応についての、誤解を招く発言なんですけれども、この②までは、答弁ではずっと議長が止めたことをしっかりと答えておられるんですけども、これまでの12月までのというか、34人に対して、議長には止められたという説明はされたのかどうか。

○近藤議員

令和7年12月27日の説明では、そのことは伝えてあります。

○田中委員

議長には止められたと、けども委員長から求められなかったと聞こえる旨の発言をしたと。ちょっとその辺もう一回お願いできますか。

○近藤議員

委員長の言葉は聞こえなかったという表現をしたと思います。

○東野委員長

③と⑤について協議続いておりますが、皆さんございますでしょうか。

昼食時限といたしまして、暫時休憩いたします。再開を13時といたします。

<休憩中>

○東野委員長

休憩を解き、会議を再開いたします。

それでは③と⑤の項目を、引き続き質疑したいと思います。

○保坂委員

③のほうでちょっと確認です。

誤解を招く発言は、自己の正当化のためにしたのかということ聞かれたら、そういうつもりはなかったというふうにお答えいただいているんですけども、分かりやすく言うと、なぜ議長と阿部委員長の比較するようなことを発したのかっていう、単純に疑問なんですけども、それはあれですかね、やっぱり委員長に対する、何か下に見てるっていうか、なんかそういうところから出てきた、年下だからとかそういうことで、そういう発言になったのか。そこに触れなくてもいいのと思うんですけど、あえてそこ、説明会のときに言ってるっていうところが、単純に疑問に思うので、それはなぜだったのか。

結果的に、やっぱり、阿部委員長の判断ミスだったみたいなのがやっぱり、こう見えるために、後段のそういう対応が出てきてるわけであって、もしそういう見方、先ほどの所管事項と議案審査の違いみたいなものが、もしあるのであれば、それは直さなきゃいけないことだと思うんですけども、そもそもその議長の言葉は残って、委員長の言葉は残らなかったとか、委員長からは止められてないだとかっていうふうに言われてしまうと、やっぱり委員長に対する個人的な何か見解っていうか、捉え方があったから、そういう発言があったのかなと読み取れてしまうんですけども、そういうところは、なかったかということを確認したいと思います。

○近藤議員

今ほどの保坂委員の、委員長を下に見てるんじゃないかということは、そんなことはありません。

委員長は、しっかり総務文教常任委員会の委員長としてやられてるので、年は下ですけど、議員として尊敬もしてますし、なおですね、議長のほうは、私ある程度、先輩なものですから、議長のほうにはある程度ウエートがあります、はっきり言って。青年会議所の時代から、連合青年会議所の会長で、糸魚川の地域ごとに青年会議所を根づかせた張本人でもありますし、そのときからの先輩としての重責は、古畑議長については、かなり上に見ています。

○保坂委員

捉え方としては、そういう捉え方をしたということが確認されました。

あともう一つ、この⑤のほうの、総務文教常任委員会と議会運営委員会での近藤議員の発言のところで、やっぱりどうしても、今日いただいたプリントの時系列を見ますとですね、気になる点がありまして、やっぱり1月31日の県に報告をする後援会で、議員活動を継続していることを決めら

れているんですけども、後段のこの横町区議会定例会、横町公民支館運営委員会、あと敬老会のこの説明会なんですけども、これはあれですかね、近藤議員は横町出身ということで、各地域団体等の、何か顧問とか、そういう関係があつてこういう会議に出られているのか、そうではなくて、その地元出身議員ということで、お願いをして、そこで謝罪のこと、依頼をしてやったのか、要は、後援会としての動きなのか、議員個人としてお願いして、こういった人数が集まる中で、謝罪会を設けてきたのか。

あと、そこのメインが、虚偽の発言、虚偽の発言をしてさぼったことをメインで謝罪しているのか、阿部委員長に対する誤解を招いたことに謝罪してるのかっていうところで、どうもやっぱり、そこが私にはちょっと見えないもんですから、その辺ちょっと明確に、こういう形で依頼して、両方について、誤解を解く説明をしたとか、謝罪の説明をしたとかっていうふうに、ちょっとこの時系列の、団体での対応をちょっと教えていただきたいと思います。

○近藤議員

まず区議会、横町公民支館、これには私、横町の参与として、こういった会に出させていただいております。

また、グラウンドゴルフの会は、私もメンバーです。敬老会についても、私、メンバーとして、そういったところで、依頼というか、その時々長に、こういう謝罪、説明会をしたいんですけどっていうことを一報入れてさせていただきました。

また、その場でこういったことをしてしまったっていう私の謝罪とともに、阿部委員長が退席をしてはいけないということを明確に伝えることが第一条件で、この説明をしております。

○保坂委員

この謝罪に関しては、県に報告する後援会が何か動いたというわけじゃなくて、近藤議員が自らその参与という立場でお願いして、そういう説明の機会を設けたということでよろしいでしょうか。

○近藤議員

そのとおりでございます。

○阿部委員

今ほどの質問に繋がるんですけど、その団体の方に説明、話をした内容と、個人のお宅に行って話した内容、趣旨は分かるんですけども、実際に何ていうんでしょう、34人の説明、最初の34人以外の方に説明するときに、どのように説明したのかなっていうのは、やっぱり気になるもので、こういった趣旨でしたっていうよりかは、原稿をお持ちになって読まれたのか、どういった内容を喋ったのかっていうのを、できる限り詳しく再現してもらえたらと思うんですけども。

○近藤議員

これ、4月6日前と後ではちょっと違うんですけど、4月6日前は、口頭で阿部委員長が退席の許可を出していないっていうことを、支援者の方々に伝えてまいりました。これは原稿ありません。

ですが、4月6日以降の、この7日からですね、これはしっかり原稿作って、そういった場でお伝えしたものと、この後にあります支援者の説明についても、文書で渡した方もいらっしゃいます。

○阿部委員長

どういった内容を喋られたかっていうのを、今ここで読み上げてもらえればと思います。

○近藤議員

4月6日以前は、辞職勧告を受けて、阿部委員長からは聞いてないと言ったけど、しっかりと阿部委員長は、退席の許可を出していないということを言葉で伝えておりますし、BSNとNSTの報道された後は、12月27日の横町会館で行われた支援者への説明会において、委員長の退席許可を聞いていないと説明したことが、市民の方から、委員長が許可を出したかのような話になっていると、委員長から指摘を受けた件で、委員長は退席の許可を出していないことを明確にして、皆さんに説明をしました。

○阿部委員

そこに繋がってくるんですけど、先ほども、どういった内容、趣旨っていうのは分かるんですけど、先ほどご回答の中でも、委員長が「行くな」という発言に対して、「行くな」と表現した、「行くな」と言ったとして、そのように表現した理由を説明してほしいというところを、もう一度回答いただけますか、お願いします。

○近藤議員

先ほどと一緒に説明なんですけど、令和7年12月17日、議会運営委員会では、議長と委員長の駄目という言葉聞かず、と答弁し、令和8年2月9日、議会運営委員会では、阿部委員長の退席をするなということについて答弁しました。令和8年3月13日、議会運営委員会が出された時系列の文書は、中村クラブ長のメモと聞き作ったもので、「行くな」は適切な表現ではないと私も後で感じました。支援者の説明では、決して「行くな」とは表現はしておりません。

○阿部委員

そこなんです。今ほど「退席するな」という表現がありましたけど、私は「行くな」という表現はやめていただきたいってことを伝えて、訂正を求めてまいりました。

今でも「退席するな」という表現が用いられています。退席は適切ではないっていうことを、公務を優先してくださいと伝えたのみで、退席するなとは言っていないんですけど、やはりあその場でもお伝えしたんですけど、要は、先輩、目上の方に対して、同僚議員ではありますけど、目上の方に対して、そんな上からの発言をすることはないんです。なんですけれども、それでも命令口調で表現された理由は何ですか。

○東野委員長

阿部委員、今ほど近藤議員の説明では、確かに行くなっていう表現は適切じゃなかったっていうふうな説明をしたんですけど。

○阿部委員長

後に退席するなっていうふうに変ってるんです。

○近藤議員

この議会運営委員会で私が答弁した言葉を、これ述べてるだけで、説明会ではそういう説明はしておりません。

これは、時系列で喋ったことをここに盛り込んだもので、支援者の方々には、退席の許可を得ていないということ、退席を委員長は出していないよということを伝えていました。

○東野委員長

他、ございますか。

よろしいようであれば④について、副委員長お願いします。

○田原洋子副委員長

④近藤議員が議員を続ける根拠。

一つ目、議員の継続や引き続きの支援について、話をしてくれた人がいるのか。

○近藤議員

12月27日の説明会及び支援者の方々の説明会において、その説明する中で、厳しい意見もあったんですが、多くの方が頑張れ、応援してる、負けるななどの激励の言葉をいただいております。

○田原洋子副委員長

二つ目、委員は辞めるが、議員は辞めない理由を説明してほしい。

○近藤議員

議会運営委員会の副委員長と委員を辞するのは、はじめとして到底足り得るものではありませんが、また、議会運営委員としての資質について、私なりに考えた結果で、副委員長の任を降りました。議員を辞さない理由は、先ほどの支援者の後援会や、厳しい意見や、あったんですが、頑張れ、応援してる、負けるな等の激励の言葉も他に多くいただいたと先ほども言いましたが、支援者のある方が、議員を辞職すると、マイナス評価は変わらない。しかし、これから議員を続けていれば、いばらの道かもしれないが、近藤新二のマイナスの評価を、ゼロもしくはプラスに転じることもできるんじゃないかと、信頼回復に向け、議員を続けてほしいとの意見を数人からいただいたのを、これを親戚や家族に相談して、自分なりの答えを出したということです。

○保坂委員

時系列のところで確認させてください。

12月27日の選挙の後援会が解散になってる。それは何なんでしょうね。そこまでたくさんの方が頑張れやとか、続けていれば、ゼロからプラスに変えろとか、そういう話になってるのにも関わらず、解散っていうのが、何ていうのかな、ちょっと意味が分からないんですけども、これをどういうふうに理解したらよろしいでしょうか。

○近藤議員

12月27日の解散については、19日の役員会のときに話したときに、この政治団体だけの会議を開いて、そういった意向で進めるということが、27日の前に決定をしたようです。

それを27日のときに私が聞きまして、団体としては、辞職勧告を受けたこの重い責任を、しっかりと受け止めるということで、団体を解散したと聞いておりますが、個々の支援者の方々については、今ほど答弁したように、激励の言葉を多くいただいております。

○保坂委員

では、この選挙対策用の後援団体解散っていうのは、今回の事案があるないに関わらず、選挙のための団体だから、しばらく選挙ないから、解散という捉え方でよろしいですか。

○近藤議員

先ほども言ったように、辞職勧告が出されたということで、これを重く受け止める意味で、選挙団体を解散したと聞いております。

○保坂委員

普通は、辞職勧告決議を受けて解散したのであれば、ここで頑張れやとか続けるんやとかっていう話にはならないと、普通は思うんですよ。だって解散する意味ないですから、重く受け止めたらね。

そこが理解できないから、どのような話し合いがされて、この解散に至ったのかっていうのを知りたいんです。

○東野委員長

解散になった経緯ですね。

○近藤議員

私、そこの決定するところにはいないんで、その解散するということは聞いたんですが、その内容については、承知はしておりません。

○保坂委員

今ほどは、辞職勧告決議を受けて、重く受け止めたので、解散したんですよね。

○近藤議員

そのように聞いております。

○保坂委員

あともう一つ、その下の1月31日の県に報告する後援会が5人おられて、1人辞められてるんですけども、この方と、この選挙対策用の後援会の団体の解散とは、全く別の人ですか、それとも含まれていた5人なんでしょうか。

○近藤議員

この方は、県のほうの提出のほうの長の名前にはあるんですが、この選挙団体のほうには、メンバーとして入ってはいます。

○保坂委員

いやいや、そうじゃなくて、この5人の、今、県に提出する5人の役員の方っていうのは、元々その解散した後援団体に全員こんな名前が連なっていたんでしょうか。

○近藤議員

全員が名前を連ねているわけではありません。

○保坂委員

何名の方が連なっていたんですか。

○近藤議員

2名の方です。

○保坂委員

その団体の中で2名おられて、2名の方も、今後頑張れやっということと言われたってことでよろしいですかね。

○近藤議員

そのとおりです。

○保坂委員

となると、辞職勧告決議を重く受け止めたっていうのは、どうやって解釈されているのか聞いておりますか。

○近藤議員

長である人からは、今回の辞職勧告出たことは非常に重く受け止めて、地域としても、受け入れなきゃいけない。なので、一定のことをしないといけないんじゃないかっていうことを聞いておりました。

○保坂委員

ちょっと、今日ちょっと聞いてて気になったのがですね、もしかすると、この後援会、解散した団体も、今継続されている後援会も、もしかするとですよ、近藤議員の議案審査と所管事項調査の感覚であるとか、あと、その歯医者に行けば委員会を退席してもいいっていう感覚の人たちの集まりってことでよろしいでしょうか。そういう認識の集まりだという認識でよろしいでしょうか。

○近藤議員

いや、そういう認識じゃないと思います。

○保坂議員

そうすると、やっぱり何だろう、もし団体がそういう感覚でないんであれば、もっと近藤議員に対してかなり厳しい対応されると思うんですけど、この解散が厳しい対応だったんでしょうか。

○近藤議員

そのように聞いております。

○保坂委員

聞いとるっていうことは、解散の理由を聞いて、辞職勧告決議を受けた人間を、選挙としては応援できないということになりますけども、さっきの継続の理由と矛盾するんですけども、そこはどう捉えてますでしょうか。

○近藤議員

これは、その長の意見をここで言ってもいいのかどうかは分からないんですが、団体としての処分の仕方と、個人の意見とはまた違うということが言われておりました。

○保坂委員

ということは、今、近藤議員がいろいろ説明しているのは、個人的見解と団体の見解と、両パターン、ダブルスタンダードであるということではよろしいでしょうか。

○近藤議員

選挙のこの団体、後援会の団体が解散したのは、そういった見解があると思います。

○保坂委員

もう一つ、一番大きな気になってるところはですね、今回の辞職勧告決議が出て、議員を続けるってところが報告されてるんですけど、その謝罪会をすれば、行った行為がチャラになるというか、リセットできるっていうお考えでよろしいでしょうか。

○近藤議員

そのような考えは持っておりません。

○保坂委員

ただ、残念なことに、議会運営委員会から4項目のいろんな提案がなされるんですけども、それまでの対応が、動きが見えなかったっていうのもありますし、もっと言うと、結構早い段階で、1月31日の段階でも、議員活動継続の決意表明ってことをされておるんですけども、そこでどんな襖を切ったのかとか、どういう心を入れ替えて取り組むだとかっていうのが、全然公にはなってないんですね。近藤議員の中ではあったかもしれませんが、公には全くなっていないくてですね、それが全然見えてないっていうことで、後半もいろいろ対応はしてるんですけども、後手後手に回ってるってことで、やらされてる感っていうのがすごく見えてくるんですけども、自主的に何か本当に、さっき言ったゼロからプラスに変えていくような行為があれば、今みたいな現状にはなってないと思うんですけども、その辺っていうのは、この県の後援会の人たちと、きちんと相談されてやってきているんでしょうか。その襖の切り方というか。

○近藤議員

その辺の襖の切り方っていうところについては、話はしてないと思います。

ただ、12月27日の説明会で、多くの方々が3月議会までにはちゃんと自分の進退を言えるようにしろよという提言が、そこで聞いていたものですから、そこで3月議会の前に進退をはっきりすることを、それで一応約束したのかなというところがございます。

○保坂委員

継続すること自体はね、近藤議員本人の考えで全然いいんですけども、要は、私が気になったのは、もうごめんなさいって謝罪をすれば、こと足り内容だったと思ってるかってことがポイントで、なおかつ相談する方として、後援会を開催したけれども、県に報告する後援会があるのと、あといろんなこれを見ると、支援してくださる方が大勢おられるみたいなので、そういった方たちとの話の中で、どういったことをすれば、今回のことが、何ていうのかな、けじめをつけたことになるのかっていうところを話し合われてきたのかなと思って見てるんですけど、そういうことはないっていうことでよろしいですか。

○近藤議員

全くないというところではなくて、これから初心に戻って、ちゃんと一から真摯に行動するようにと、そういった話は、その場ではありました。

また、私が本会議場で決意を述べたときとか、議会運営委員会で述べたように、そういったところも、そういった会議で出されたっていうのが、事実でございます。

○東野委員長

保坂委員、ちょっと繰り返しのようになっておりますので、まとめていただいております。

○保坂委員

要は、今回の辞職勧告決議案に対して、県に報告する後援会とか、支援者の方と、説明会はしたんでしょうけども、その今後議員を継続するにあたって、何か話し合っているのも、ここでは全然見えてこないんで、結局は近藤議員自身の継続の決意だったっていう理解でいいのかなと。後援会じゃなくて、ご自身の決意で、議員を続けられるっていう解釈でいいのかなという確認なんです。

○近藤議員

12月27日、かなりの皆さんからご意見をいただいて、その中で意見を、後援会としての意見はここでまとまりました。

それを受けて、1月31日までっていうことで、何もしなかったのかということなんですけど、個々に役員の方々とは、個別に連絡を取りながら、今までの説明した経緯や、私が今後どうするのか。支援者からどうやって言われとるのかっていうのは、随時お話をして、共通認識でやっておりました。

○東野委員長

ご自身が辞める辞めないの判断で今続けてられるのかっていう質問に対して。

○近藤議員

先ほども答弁したとおり、支援者の方々の意見をまとめて、親戚、家族と相談した上で、私自身で。

○阿部委員

応援の言葉が、多くの方からあったという話なんですけれども、具体的に何名ぐらいあったのか、私のところには、かなり厳しい声が届いているので、近藤議員本人のところには、どういった方から応援の言葉があったのか、何名ぐらいあったのかっていうのは、ちょっと多くのっていう表現の詳しいところを聞かせてください。

○近藤議員

はっきりとした人数は覚えておりません。何名の方々と説明会をしたのかというのも、はっきり言って30名程度とか40名程度と書かせていただきましたが、何人いたのかもはっきり、この程度なんだらうなあということで、多くの方々からいただいたというのは事実でありますし、厳しい意見をいただいたっていうのも確かです。

○阿部委員

この⑤のところにかかると、総文の中での発言とかっていうのが、ここに関わってくるかなと思うんですけど。

入学式等の祝いの席には行かないっていうふうに、行っていないことをお話されてるんですけども、5月26日の地域振興局長の歓迎会には参加されています。これはどういった心境の変化であったり、参加されたのか、お聞かせください。

○近藤議員

この件に関しては、私悩んだんです。それで、会派の皆さんにどういった立ち位置で、欠席すべきか出るかを相談したところ、新任の方の祝いなんだから、行ったほうがいいんじゃないかという事で出席をしました。

○阿部委員

入学式はキャンセルというか、それは行かずに、そういった宴席まで出ておられたかと思うんですけども、そういったところの整合性とか、要は5月1日の中では何て表現されたかな、要は、これから説明責任をしっかりと果たしていくとか、透明性を持ったとかっていう話をされてる中で、その行動が果たして、どうだったのかというところはやはり疑問に思いますが。会派の判断ということで、よろしいですか。自身の判断ではなく。

○近藤議員

一応2人に、出席をどうしたらいいかっていうことは、お尋ねして決めさせていただきました。

○東野委員長

会派の判断ということでよろしいですか。

それを判断したのはご自身ですよ。

近藤議員の判断でよろしいですか。

○近藤議員

お二人の意見を聞いて、私自身が決めました。

○阿部委員

入学式のときには、そういった会派での共有はあったんですか、なかったんですか。自身の判断で入学式等は出席せず、振興局長の新任就任式では、宴席まで出るという判断をされたのか、伺います。

○近藤議員

入学式については、ちょうどこの4点の提言がなされて間もないときでしたので、私のこういった4点の提言を出された身の上では、祝い事にはふさわしくないということで、総務文教常任委員会では説明をさせていただきました。これは会派のお二人には相談はしておりません。

○阿部委員

5月26日時点でも、4点は済んでいないというふうに思うんですけども、そこで出席に至った判断はどんなものだったのか伺います。

○近藤議員

総務文教常任委員会において、阿部委員長じゃない人からだったかどうか分かりませんが、公務や準公務でも、ちゃんと出席したほうがいいのかというような意見を、あのときあったと思います。

悪い行動を起こした私でも、そういった立場でしっかり出て反省をしろということも、あのときに言われたと思います。そういった意見も踏まえて、出させていただきました。

○田中委員

今、お二方の質疑を聞かせてもらっていて、12月27日に支援者の皆様に謝罪と説明をされて、そこに集まったところにおいて、決議を重く受け止めるという流れの中で、後援団体が解散をしたというふうにされましたよね、違うんですか。

○近藤議員

後援団体の解散は、その前に、12月19日の後援会幹事会の中で、ある程度説明させていただいて、選挙団体の役員たちが、事前に、27日の前に決めたということです。

○田中委員

もう、19日以降のときに決めてあったということですね。

要は、決議を重く受け止めた中において、これをやったということですよ。

27日に謝罪と説明会をしたということなんですけれども、この中において、お叱りの言葉もあったけれども、頑張れ、負けるな、応援しているということもあったということなんですけれども、この説明の中では、支援者に対しては、委員長からは止められなかった、了承を得たと受け止められる発言で説明をされたのではないかと、されたわけですよ。

なので、このような説明の中に置いて、これを受け止めて、ここに集まった人たちが、今のようにお叱りの方もおられれば、励ましの方もおられた。この励ましをされた人たちというのは、ひょっとして、止められなかったというふうに受け止めてやったんじゃないのかなと。もしもこのときに、委員長からも議長からも止められたけれども、俺は嘘ついて出たんだっていうのを分かっているのとじゃあ、大きな違いがあるんじゃないのかなと私は思うんですけども。

○近藤議員

先ほども答弁したとおり、27日の説明会では、委員長からは聞いていないということを皆さんに言いましたが、その後、委員長からは退席の許可は出されていないということを説明する場において、先ほども言ったように、その出席された方々からは、近藤さんは委員長からの言葉は聞いてない。許可を得たようなことは言っていないよっていうことは、しっかりと確認はしております。

○田中委員

何かちょっと、その辺、自分の中でちょっとは重大なポイントなんですけれども、要は言っていないよと言うけれども、そのように受け止めていたんじゃないのかなというふうには取れるんですけどもね。

これは本当に委員長から止められたというふうに受け止めてだったかな。励ましの言葉をやるのとでは、やっぱり違うと思うんですよ。

ちょっと今それはどうかなって私は思うんですよ。何ていうのかな、あやふやな言い方って言ったらいいんでしょうか。説明の中において、はっきり分かったのは、1月31日であって、その前の段階において、改めて皆さんに説明に行くまでは、実際のところはよく分かっていないんじゃないのかなと私は思うんですけども、その中において、やはり励ましの言葉や継続したらどうかっていう言葉が出たんじゃないかなと思うんですけども、それは違うって言われるわけですか。

○近藤議員

1月6日に、はっきりこれ、公務優先という発言を認めて以降、支援者にはしっかりと説明をしながら回っています。その場でもそういった意見がなされてますし、田中委員おっしゃるように、12月27日にそういった捉え方をしたのか、そういった説明をしたのかっていうところは、後日ですね、私が支援者の方々に聞きながら説明したときには、近藤さんはそのときには聞いてないって言ったけど、退席許可を得たなんて言っていないよねっていうことをしっかりと確認はしております。

○宮島委員

議員を続けることについて伺います。

2月9日の議運の中で、近藤委員は、「私の進退については、議員活動を継続し、初心に立ち返り、何事にも真摯に取り組んでいくだと考えております。今回の件を教訓として、透明性のある活動を心がけ、信頼回復に努め、誠実に職務に努めたいと思います。」とおっしゃっています。

5月29日に配布された市民の皆様へのお詫びの中にですね、「今後は議員の責任を自覚し、品位と誠意を持って行動して、市民の皆様の信頼回復に努めてまいります。二度と繰り返さぬよう、自己の行動を厳しく戒め、誠心誠意努力してまいります。」と書いてあります。

であるならばですね、私は、例えば、糸魚川小学校の入学式、中学校の入学式、運動会、それから教育懇談会、こういったものには、出席するべきだったんじゃないかなと思います。多分、地域振興局長の歓迎会と違って、一般市民が非常に多く出てますから、近藤さんに対する批判的な目もかなりあるのは明らかなことで、でも初心に帰り、議員を続けていくのであれば、そのつらい環境にあえてですね、自分を入れていく、その覚悟を見せる、そういったほうが、反省の気持ちが伝わりやすいんじゃないかなと、私は思いました。

運動会の当日、東野委員長にも話を一緒にしたところですけども、そういう考えは至らなかったんでしょうか。小学校とか中学校の入学式だけでなく、運動会、それからこの間の教育懇談会も欠席されてますよね。いろんな事情があったんでしょうけども、その辺分かりやすくお話しください。

○東野委員長

宮島委員、これに留めてくださいね。

○近藤議員

宮島委員の提言を受けて、私もそういった考えで、出席すればよかったのかなと思ってます。

だけど、予定が先に埋まってまして、地域の事業を、そっちを優先してしまいました。

○宮島委員

今回の近藤議員の件は、お酒に絡む不祥事だというふうに私は思います。

そういう場合ですね、いろんな全国の議員で、お酒がらみで不祥事を起こした議員は、断酒宣言をすることが結構あります。お酒を断つ。これは公的な、例えば酒宴に出ないとかですね、そういったものでもいいんですが、そういった覚悟をされていれば、例えば地域振興局長のね、歓迎会ではお酒を一切飲まないとか、そういう姿勢でも分かりやすかったのかと思います。その辺は会派のメンバーからもアドバイスなかったのでしょうか。

○近藤議員

12月、辞職勧告が出されて、約3か月、公の場にはそういった飲酒には出ないということは自分で決めて、その後、3月の定例会で、4つの提言が出されたときも、更なる延長ということで考えてやってきました。

ですが、5月の地域振興局のときには、6か月過ぎたしどうなのかないうところで、飲酒をしました。

○宮島委員

政治倫理審査委員会は、糸魚川市議会史上初めて、辞職勧告決議も初めてですね、非常に重大なことが起きたわけですがけれども、残念ながらですね、提出いただいた資料に誤字があります。

こともあろうか、所属会派の名称が違うんですね。これ以前、中村委員が提示されたものでも、自分が所属する会派の名前が違っていています。創生の生が、成だったり生だったり。

こういうのを見るとですね、本当に議員として真摯にやっていくのかなっていうのが、すごく疑わしくなっちゃうんですね。これ非常に公式な書類ですよ。その辺どうなんでしょうか。例えば、行政の人がミステイクすると、かなり辛辣な意見も議員から出てますけれども、そういったものを受けて、ご自身どうですか、資料の作成というのを、真剣味が十分だったのかなとか。いかがですか。

○近藤議員

すいません。誤字については謝ります。

○保坂委員

今の宮島委員ご指摘のあったところなんですけども、時系列の令和8年5月29日、市民への謝罪文の全戸配布ってなってるんですけども、正確には質問のほうにあるとおり、折り込みチラシが正しいかと思います。全戸配布という表現は、市民の戸数全体に入れてしまうということになるので、誤解を招くので、あくまでも新聞折り込みの対応だったかと思いますので、もしこれ公式にね、資料を残すのであれば、そういったところもちょっと字句の訂正はされたほうがいいのかというふうに思います。今の宮島委員ちょっと聞いてて思いました。

○東野委員長

暫時休憩します。

<休憩中>

○東野委員長

休憩を解き会議を再開いたします。

今ほど宮島委員、保坂委員よりご指摘のありました内容については、事務局のほうで修正をさせていただきたいと思います。そのように決めますが、よろしいでしょうか。

〔「結構です」と呼ぶ者あり。〕

○東野委員長

そのように決しました。
他、④について。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○東野委員長

それでは最後の⑥に移らせていただきます。

○田原洋子副委員長

⑥阿部委員長への謝罪会と総務文教常任委員会への謝罪会での近藤議員の発言。
一つ目、折り込みチラシに時間がかかった理由を説明してほしい。

○近藤議員

4月7日に創生クラブの打合せで、折り込みを協議した内容では、創生クラブの議員広報の一部に、近藤新二の謝罪文を掲載し、クラブ長の一言も添える案が出され、6月3日開催のまちづくり講演会の内容も掲載してはという意見が出されました。ですが、折り込みチラシの日程が決まらないままでおりました。

しかし、5月1日の総務文教常任委員会の謝罪の質疑応答について、保坂議員のご指摘を会派に伝えたところ、5月11日に会派で協議し、5月中に近藤、個別に折り込みチラシを配布することと決めました。

文書作成に時間を要してしまい、5月20日、謝罪文を会派で見てもらい、文書の補正後、印刷に持ち込み、依頼をして、折り込みチラシが29日に出されたということになりました。

○田原洋子副委員長

二つ目、総文で委員長の名誉を回復する説明をやっていききたいとしているが、具体的な活動を説明してほしい。

○近藤議員

今回の政治倫理審査委員会、調査内容が後日出されると思うんですが、その前に、やっぱり委員長に対しての名誉については、挽回するべき、会合なりそういったところで、私個人の口から皆さんに伝えていくようにしますけど、今後ですね、この委員会の決定を受けて、議長がどのように判断されるか。そういったところも地域の回覧板などで一緒に流して、伝えるようにすることを、今検討をしています。

○阿部委員

時系列では、6月2日で止まってるんですけど、5月1日に名誉回復に向けた活動ということで、具体的に何が行われたのかっていうのは、ここまで1か月半以上が経過してる中で、この後というのは、今までも全て、この後この後っていう、要は、自発的ではなく、誰かからの提言を受けてやられてるように見受けられますが、この間、何も時系列に書けないということは、何もなかったのかなというふうにも受け止めるんですけども、どうお考えでしょうか。

○近藤議員

5月1日の総務文教常任委員会で、皆さんからの質疑で、私自身も地区の中で、阿部委員長の信頼回復に向けて、ちゃんと阿部委員長は退席許可を出さずに、公務優先ということを、はっきり私に言ったっていうことを、そういった地域場で話しています。ですが、これはその時々によって伝わり方が違うと思うんで、これからもそれを伝えていく活動をしていますし、それと地域に全部にやっぱり知ってもらえると、回覧板が一番いいのかなということで、回覧板を検討してるっていうことが、今の状態です。

○阿部委員

回覧板で、果たして本当に回してもらえるのかっていうのは、ちょっと私の地区だとちょっと考えづらいんですけど、ご自身で回覧板でっていうお考えなのか、それとももう、回覧板で回す手配はされているのか。という点と、地域はどこになるのか。伺います。

○近藤議員

私先ほども説明したとおり、横町区の参与という形なんで、区長にお願いして、私の今の状況、それと阿部委員長の信頼回復の文面を、回覧板に載せることをお伝えして、それが了承できるのかどうか。それを今、確認をしたいと思っております。

○東野委員長

これから確認ってことなんですネ。

なかなか地域でも、そういった政治的な内容の部分を、区の回覧に載せるってだいぶ困難だっていうふうに私聞いて思ったんですけど、その辺も踏まえてよく確認していただいて、行動していただければというふうに思います。

○阿部委員

やはりちょっと厳しいようなこと言いますが、自身の何ていうんでしょうかね、行動をできると思ってることも、少し疑問かなと。誰かがやることであって、それが飲んでもらえるっていうところも、今、公の場で発言してますよね、回覧板で回そうと思ってるっていうのを、自分が回せるわけではなくて、町内会であつたり自治会が回すんですよ。それを自身の思いだけで、回覧板を使って謝罪します、説明しますっていうのは、少しやはり感覚のずれがあるのではないかなと思います。そこら辺はいかがですか。

○近藤議員

先ほども説明したとおり、区長にご相談をかけて、それで掲載することを検討してるっていうことです。

○阿部委員

もう相談されてるんですか。先ほどはしていないと言ってましたよ。ではしていないことを、公の場で回覧板使うっておっしゃったんですよ。いかがですか。

○近藤議員

先ほども言ったように、これから相談して検討していくという。

○阿部委員

繰り返しになりますね、ごめんなさい。これから相談することを、要は自分でやるなら、例えばですけど、新聞折り込みを使って、改めて全戸配布しますっていうんなら、自分のことなんですよ。でも、回覧板っていう、要は、町内会の機関を使って、知らせようっていう話をしているのに、相談なく、公の場で回覧板を使いますっていう話をするのは、やはり違うのではないかなというふうに思うんです。ご回答お願いします。

○近藤議員

先ほども言ったように、検討してますということです。

○東野委員長

はっきり申し上げまして、検討かなわないのでないかっていう意見でございます。なかなか難しいと思いますんで、また区長ともお話していただいて、また見解聞いてみてください。あんまりいい回答は出ないと思いますんで。

○阿部委員

最後にします。要は、区長とそういった、回覧板使いたいとかっていう話をしていない時点で、この場に回覧板という言葉、回覧板を使うっていう表現であつたりをするのが、そもそも違うんじゃないかと申し上げてます。

自身の思いですよね、回覧板使えばみんなに回るだろう。それはそうだと思います。ですが、自身の行動だけでかなわないことだと思うんです、回覧板を使うっていうのは。それを、要は、相手の許可もなく、公の場で回覧板を使って説明しますっていうのは、やはり議員としては責任のない発言ではないかというふうに申し上げております。これについていかがですか。

○近藤議員

先ほども言ったように、検討させていただきますということです。

○保坂委員

阿部委員長への謝罪会ということで、あの謝罪文、今一度ちょっと言わせていただくと、後段のところにですね、総務文教常任委員会には、改めて委員の皆様にご迷惑をおかけした旨を、次回開催される委員会で謝罪させていただきますと。そのあとですね。市民の皆様には議員としての信頼を損ねてしまい、議会の権威を失墜させてしまったことを深く反省しております。私の行動と言動で阿部委員長には大変ご迷惑をおかけしてしまい、心よりお詫び申し上げます。なんですけど、何ていいですかね、確かに新聞折り込みであるとか、適宜こういう説明会をしたということなんですけども、辞職勧告決議を受けたのは、嘘をついて酒宴の席にいったっていうことですよ。

阿部委員長の今回これだけ時間かけてやってる理由っていうのは、やっぱり同僚議員に対するあの配慮っていうか、そういうところの欠如だと思ってるんです。皆さん選挙を勝ち抜いてこられて、議員になっているわけであって、それぞれのポストにつきながら、その役責を果たすべく皆さん努力されております。

そういった中で、簡単に聞いてなかったわとか、知らなかったわとかっていう対応が非常に求められてる中で、何ていうのかな、近藤議員は近藤議員なりに、何かしら対応してるつもりなんでしょうけども、ちょっとそういうところの齟齬といいますか、うまくかみ合わないところがあって、

ある意味誤解はされているのかもしれませんが。近藤議員がとってる行動が。自分はよかれと思ってやってることが、その反省に映らないっていうか、そういうところもあるんですけども、何ていうのかな、もう少し逆の立場で見て発言したりすると、的を射た対応になるのかなと思うんです。

今日の答弁を聞いてても、先ほど申し述べたとおりとか、そういうのがすごく多くてですね、聞かれたことに対して純粋に単純に答えればいいんですけども、さっきも申し上げたとおりとかってやると、どこで言った言葉なのか、非常に分かりにくくてですね、そういったところが非常にごまかして答弁してるのかなって映るので、それが非常に残念だったので、もうちょっとストレートにやってきたこと、また自分が考えてきて行動をとったこと、発言したことっていうのを聞かせてもらえればなと思ったので、そこはちょっと今、今日残念だったんですけど、そういう声を聞いた上で何か言っておきたいことがあればと思って、今、あえてそういう質問をさせてもらってるんですけど、いかがでしょうか。

○近藤議員

阿部委員長への名誉回復に向けた取組が、私、非常にこれからの課題だと思ってますし、それに向けた取組をこれからやっていきたいと思っております。

○保坂委員

その気持ちはいいですよ。だからやっぱり先ほども確認されてますけどね、具体的にどうやって、この謝罪文には、どうやってこの信用、信頼を回復していくのかっていうのが見えないので、だからよく後援会の皆さんも頑張れって言ってくださったなと思うんですけども、何をもってその信頼回復していくのかっていうところが抜けて、今後頑張っていきますとか、今後説明していきますとかって言うんですけど、そこが見えないもんですから、なんか、非常にこっちもストンと今、何とか納得できないっていうか、受け止め方になるんですけど、今のままだとそれで終わってしまうんで、今度そのいただいた答弁の内容で今度判断しなきゃいけないもんですから、今日の発言を通して、言っておくべきことはないのかなと思って今質問させてもらってます。いかがでしょうか。

○近藤議員

議会運営委員会での私も謝罪であったり、市民へ向けたお詫びの文面だったり、こういったところに書いてあるように、議員の責任を自覚して、品位と誠意を持って行動し、市民の皆様の信頼回復に努めてまいります。二度と繰り返さぬよう、自己の行動を厳しく諫め、誠心誠意努力してまいります。

ということで、これからの行動をしっかりとやりたいと思っております。

○田原洋子副委員長

新聞折り込みについて、まず創生クラブの会報とかの一部にクラブ長の見解も入れて入れようと思ったとか、まちづくり講演会のことも入れたらどうだとか言ってあったんですけど、これあくまでも、その会派っていう相談とかいろいろあったとしても、起こしたこと近藤議員個人のことで、何でその創生クラブの会報の一部として、使おうと思ったって、なんでそんなような話合いになったかと、ちょっと理解できないんですけど、まずその謝罪文であれば、何かのついでとかではなくて、単発で出すべきだと思うんですけど、どのように判断されたんでしょうか。

○近藤議員

3人で話した中では、私の団体でという意見を出したときに、いや、会派の広報で出そうかっていう言葉が出まして、そこでは決定しなかったんですが、そういう意見が出たってというのが事実でございます。

○田原洋子副委員長

それから5月1日の総務文教常任委員会で、保坂委員よりの指摘と言いましたが、これ具体的にどのような指摘あったか確認させてください。

議事録に残ってるので言います。会派というか、折り込みを入れるための予算は、政務活動のほうではないですよって確認が取られたと思うんですけど、それで間違いはないですか。

○東野委員長

近藤議員が織り込まれた記事に関して、それは政務活動費を活用しないで折り込んだかっていう確認ですか。

○田原副委員長

5月1日の時点なので、確か議事録見ると、保坂委員より、それはまさに私達がそれぞれにいただいている、クラブだったらクラブでいただいている政務活動費で入れるわけではないですよって確認がされたので、その指摘を受けて会派に入れるのはやめたということによろしいですか。

○近藤議員

それもあるんですが、しっかり会派の広報としてということもあったんで、できれば謝罪文は個人の謝罪文でやったほうがいいよという提言を受けて、会派に相談しました。

○東野委員長

暫時休憩します。

<休憩中>

○東野委員長

休憩を解き、会議を再開いたします。

○阿部委員

謝罪文等にもあるんですけども、折り込みのほうですかね、自身の行動、信頼回復であったり、誠意を持って議員の責任を自覚、努力していく等があるんですけども、これを出した以降で結構ですが、本当に議員として、胸を張れる行動であったり、対応をされてきたのか。具体的な事象は言いませんが、本当にそういったものが間違いなく、議員として正しい行動を、今までこの5月29日以降、現在まで、議員としてこのお詫びの文面上のとおり活動されてきたかっていう点だけお聞かせください。

○近藤議員

今、阿部委員から言われるように、努力はしてるつもりですが、100%だったということに至ってないということは、私は痛感しております。それに向けたことを、これから地道にやっていきたいと思っております。

○保坂委員

全体通して、議運の前副委員長ということもあるので、政治倫理規則っていうのは、しっかりこう読み込まれているのかっていうのと、あとその議員の品位とか品格とかですね、あと言動に対する責任とかっていう部分は、何か受け止めが、前はこうだったけど、今回このように受け止めて変わっていくみたいなことは何か明言できますでしょうか。

○近藤議員

今保坂委員言われたように、政治倫理規則、しっかり読んで熟読してるのかっていうところ、委員だったときに、皆さんとこの部分は、この部分はあるところで、一言一句読んで確かめたこともありますし、それが今、思い返せば、自分自身の身の上に置き換えてなかった。これが事実でございます。

これからの行動について、そういった部分をしっかりと受け止めて行動したいと思います。

○宮島委員

阿部委員長の名誉回復のために、横町区に回覧板に入れるっていう話ありましたよね。それ本当にできるのっていう話でしたけども、例えばですね、自分で自腹切って作った印刷物を、自分の足でですね、横町区900世帯以上ありますけれども、それに自らポスティングする、そういうのも、パフォーマンスとして見る人もいるかもしれませんが、炎天下ですしね。汗かきながら近藤議員が各戸を回ってポスティングする姿を見ればですね、近藤さんが新たな覚悟を抱いてね、議員活動を誠実にやっていく気が出てるんだと、そういうのが見えやすいと思うんですよ。

その辺参考までにお話します。

○東野委員長

他、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○東野委員長

以上で近藤議員への聞き取りを終結いたします。

次回委員会についてでございますが、本日行った聞き取りを基に、正副委員長で審査報告の案を作成し、次回委員会で皆さんに協議いただきたいと思います。

できれば本日中に次回の日程を決めたいと思いますが、正副の案でですね、8月5日水曜日になるんですが、先ほど冒頭で申し上げましたとおり、9月の議会に差しつからないようなスケジュールリングで進めさせていただきたいと思います。お盆も手前でございますことから、余裕を見ますと、やはりこれぐらいの時期かなと。8月24日にもう一週間前議運がございますので。

議長による判断は本会議の開催にとらわれず、そのときの議長の判断で進むそうでございます。改めて9月の議会に報告等はある可能性、あるかもしれませんが、議長が先々の、例えば問責決議だとか辞職勧告だとか、そういった判断を下すのは議長自身の、報告書が提出された後の議長の判断になるそうなので、お含みいただければと思います。

その前段に、8月5日ご予約いただければと思います。

日程について、8月5日、10時、こちらの第二委員会室で開催します。そのように決したいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○東野委員長

8月5日に決しました。

以上で本日の議題は全て終了いたしました。

以上で政治倫理審査委員会を散会いたします。

大変お疲れさまでした。

委員長